

玉名市文化財調査報告 第12集

# 岩崎城跡

2002(平成14)年

玉名市教育委員会



## ご 挨拶

玉名市は、縄文時代から今日に至るまで、長い歴史をもち、豊富な文化財が所在する地域です。近年は国道208号玉名バイパス建設や、九州新幹線の新駅が予定されるなど、県北部における政治経済・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を遂げようとしています。

このような中で、開発に伴う埋蔵文化財の保護対策が、重要な使命となっております。本市では、専門職員の増員を図るなど、体制の充実に努めてまいりました。その成果の公開・活用を通じて広く教育・文化の発展に寄与できればと考えております。

玉名市教育委員会では、平成13年度に玉名市岩崎において、南北岩崎公民館建設及び土地造成工事に伴い、岩崎城跡の発掘調査を実施いたしました。

岩崎城跡は、玉名市内に数多く存在する中世城館の一つであります。今まではその時代、範囲などはあまりよく把握されておらず、地域においてもその存在すら忘れ去られつつあるような状況でした。このたび、発掘調査の機会を得たことは、地域に眠っている文化財を再び人々の記憶によみがえらせるきっかけにもなり、大変価値あることであります。さらに、発掘調査では弥生時代の住居跡も確認され、古くから人々が住んでいたことが改めて確認されました。

今回の発掘調査の成果が、学術研究の資料としてのみならず、学校教育を初めとした生涯学習の場でより多くの人々に活用していただき、埋蔵文化財に対する認識と理解の一助になれば誠に喜びに堪えません。

最後になりましたが、発掘調査、報告書刊行にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成15年2月28日

玉名市教育委員会  
教育長 三 次 昭 也

## 例 言

1. 本書は、農地造成工事及び南北岩崎区公民館建設に伴う岩崎城跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国及び県費の補助を受けて玉名市教育委員会が行い、平成13年7月から平成13年11月までの期間で実施した。
3. 発掘調査における遺構実測、写真撮影は末永崇が行い、北睦美、藤好貴彦が補助した。
4. 整理作業は、玉名市教育委員会において平成14年1月から平成14年9月までの期間で実施した。
5. 遺物の実測は、末永崇、大倉千寿、古閑敬士が行い、遺物トレースは主に早川イツエが行った。
6. 製図、図版作成及び遺物の写真撮影は末永が行った。
7. 方位はすべて、公共座標Ⅱ系に基づく北を指している。
8. 本書の編集及び執筆は玉名市教育委員会で行い、末永が担当した。
9. 出土遺物は、玉名市教育委員会にて保管している。

# 本文目次

ご挨拶・例言・本文目次・挿図目次・表目次・図版目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯及び組織	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第Ⅱ章 発掘調査の概要	
第1節 岩崎城跡の位置と歴史的環境	3
第2節 玉名地方の中世城	6
第3節 確認調査	8
第4節 調査の方法及び経緯	8
第Ⅲ章 岩崎城跡の調査	13
第Ⅳ章 弥生時代～古代の調査	21
第Ⅴ章 まとめ	42

# 挿図目次

第1図 岩崎城跡位置図	2
第2図 岩崎城跡周辺遺跡分布図	4
第3図 岩崎城跡確認調査トレンチ配置及び調査区位置図	7
第4図 岩崎城跡周辺字図及び地籍図	9
第5図 調査区周辺測量図(昭和40年代)	10
第6図 岩崎城跡周辺地形図	11
第7図 岩崎城跡全体図	13
第8図 岩崎城跡堀状遺構全体図(S01,S02)	15
第9図 岩崎城跡土塁状遺構実測図	16
第10図 S02 スロープ状遺構実測図	16
第11図 岩崎城跡土層断面図①	17
第12図 岩崎城跡土層断面図②	18
第13図 岩崎城跡出土遺物実測図(1～22)	19
第14図 弥生時代遺構配置図	24
第15図 住居址実測図①(S06,S20)	25
第16図 住居址実測図②(S09,S17,S18,S29,S30)	26
第17図 住居址実測図③(S14,S11)	27
第18図 住居址、土坑実測図(S21,S25,S10,S12,S28,S24,S08,S13,S19,S16)	28
第19図 土坑、溝状遺構実測図(S23,S26,S27,S31,S07,S04)	29
第20図 弥生時代出土遺物実測図①(23～31)	32
第21図 弥生時代出土遺物実測図②(32～51)	33
第22図 弥生時代出土遺物実測図③(52～59)	34
第23図 弥生時代出土遺物実測図④(60～66)	35
第24図 弥生時代出土遺物実測図⑤(67～88)	36
第25図 弥生時代出土遺物実測図⑥(89～96)	37
第26図 弥生時代出土遺物実測図⑦(97～114)	38
第27図 遺構外出土遺物実測図(115～132)	39
第28図 住居内出土土器実測図	45

## 表 目 次

第1表	岩崎城跡周辺遺跡一覧	5
第2表	玉名地方(大野別符内)中世城一覧	8
第3表	岩崎城跡出土遺物観察表	20
第4表	弥生時代~古代遺物観察表	40

## 図 版 目 次

図版1	玉名市街地全体 岩崎城跡全体	48
図版2	岩崎城跡発掘調査範囲周辺 岩崎城跡発掘調査範囲全体	49
図版3	土塁状遺構全体1(北から) 土塁状遺構全体2(北から) 土塁状遺構(北から)	50
図版4	S02(南から) C区土塁状遺構(西から) A区土塁状遺構(南から)	51
図版5	スロープ状遺構(北から) S02土層堆積状況(A-A') 土塁状遺構土層堆積状況(B-B')	52
図版6	S02土層堆積状況(B-B') 土塁状遺構土層堆積状況(C-C') S02土層堆積状況(C-C')	53
図版7	S02土層堆積状況(D-D') C区1トレンチ(E-E') C区3トレンチ(G-G')	54
図版8	B区V層上面完掘状況(北から) A区V層上面完掘状況(南から) D区V層上面完掘状況	55
図版9	S06完掘状況(東から) S06南壁際土坑完掘状況(北から) S06鉄製品出土状況	56
図版10	S20完掘状況(北から) S09完掘状況(北から) S17完掘状況(西から)	57
図版11	S14完掘状況(東から) S14遺物出土状況(北から) S14遺物出土状況(東から)	58
図版12	S11完掘状況(南から) S21完掘状況(東から) S21内ピット遺物出土状況	59
図版13	S25完掘状況(西から) S10、12完掘状況(北から) S24完掘状況(東から)	60
図版14	S13完掘状況(東から) S08完掘状況(南から) S16完掘状況(北から)	61
図版15	S15完掘状況(東から) S04完掘状況(北から) 調査作業風景	62
図版16	出土遺物(23,27,29,30,31,32,33,35)	63
図版17	出土遺物(36,37,39,40,42,44,45,46)	64
図版18	出土遺物(48,49,50,53,56,57)	65
図版19	出土遺物(58,59,60,61,62,63)	66
図版20	出土遺物(64,65,66,67,68,69)	67
図版21	出土遺物(71,73,75,76,77,78,81,84)	68
図版22	出土遺物(85,86,87,88,90,91,92,93)	69
図版23	出土遺物(94,95,96,97,98,99,100,103,104)	70
図版24	出土遺物(106,111,112,113,115,116,118,122)	71
図版25	出土遺物(22,26,125~132)	72
図版26	出土遺物(5,6,8,9,10,14,15,16,17,18,19,20)	73

# 第 I 章 調査に至る経緯及び組織

## 第 1 節 調査に至る経緯

玉名市岩崎字西 808、809、810-1、810-8、810-10 番地において、土地所有者である坂本紀昭氏により竹林を伐採しての農地造成が計画された。しかし当地を含む周辺は、岩崎城跡の範囲に含まれており、現状でも二重の堀や土塁状の遺構が確認できた。このため平成 12 年 5 月 22 日付けで文化財保護法第 57 条の 2 による届出が提出され、平成 12 年 5 月 23 日から 24 日にかけて確認調査を実施した。その結果、中世の所産と考えられる幅約 4m、深さ約 3m の堀を確認した。また、弥生時代の住居とみられる遺構も確認した。このため保存についての協議を行い、土塁状の遺構の一部については工事の範囲から除外し、現状のまま残すという協力を得ることができた。しかし工事により破壊が免れない部分については発掘調査を実施することとなった。

同じく岩崎城跡の範囲で、玉名市岩崎字池田 668-3 において岩崎区公民館建設工事が計画された。このため平成 13 年 3 月 8 日付けで確認調査依頼がなされ、平成 13 年 4 月 18 日に確認調査を実施した。この結果、弥生時代の住居とみられる遺構を確認した。このため保存についての協議を行い、工事が埋蔵文化財に対して影響を与えないよう設計変更を行い、工事範囲内の一部については現状のまま保存できることになった。しかし工事により破壊が免れない部分については発掘調査を実施することとなった。

## 第 2 節 調査の組織

発掘調査（平成 13 年度）

土地所有者：坂本紀昭

調査主体：玉名市教育委員会

調査責任者：教育長 三次昭也

調査総括：教育次長 久多見澄夫 社会教育課長 牧野和明 社会教育課審議員兼文化係長 西田道世

調査事務：参事 徳永太郎 主事 東田優子

調査担当：技師 末永崇（本調査、整理作業） 調査補助員 荒木純治（玉名市文化財保護審議会委員）

参事 竹田宏司（平成 12 年度確認調査） 技師 田中康雄（平成 12 年度確認調査）

調査指導・協力者 大田幸博 坂田和弘 下村智 岩本千年 村上昌子

発掘現場作業員：品川タカ子 吉本スエ子 坂本弘子 竹内哲也 北睦美 藤好貴彦 古賀武子

大西ミツ子 西川弘子 田尻アヤ子 荒谷邦雄 橋口功 小崎美子 竹内昭弥

整理作業（平成 14 年度）

調査主体：玉名市教育委員会

調査責任者：教育長 三次昭也

調査総括：教育次長 久多見澄夫 社会教育課長 牧野和明

社会教育課審議員兼課長補佐 西田道世

調査事務：社会教育課文化係長 岩永次郎 主事 高田智華

整理作業担当：技師 末永崇

整理作業員：坂崎郷子 五野富美子 早川イツエ 平野輝代 古賀武子

第I章 調査に至る経緯及び組織



第1図 岩崎城跡位置図



## 第Ⅱ章 発掘調査の概要

### 第1節 岩崎城跡の位置と歴史的環境

岩崎城跡の所在する玉名市は、熊本県北部の菊池川下流域を中心とした都市で、面積約90.3㎡、人口4万5千人を有する。市街地の東側を菊池川が大きく蛇行しながら流れ、途中繁根木川や木葉川が合流し、有明海に注ぐ。

市の北側に位置する小代山は、風化の進んだ花崗岩山塊で、南側にかけて緩やかな丘陵地帯が広がっており、場所によっては花崗岩風化土のため斜面の崩落が認められる。市街地は、低い洪積台地が侵食を受けた低く緩やかな丘陵に形成され、低地は水田になっている。

岩崎城跡は玉名市岩崎字西及び字池田に所在し、中世には大野別符の岩崎村に属する。繁根木川右岸の低い台地上の標高15m～16mほどの地点に位置し、繁根木川に向けてゆるやかに傾斜している。周辺は古くからの住宅地であり、近年は共同住宅の建設も多い地域でもある。

岩崎城跡を中心に各時代の概要をみると、縄文時代は主に台地端部に貝塚が営まれる。玉名市中心部にも、繁根木貝塚、保田木貝塚などがみられる。

弥生時代は、玉名市内の各丘陵上には集落が営まれる。小代山南側の丘陵上では、高岡原遺跡などの調査が行われ、住居群が確認されている。また、同じく丘陵上では甕棺墓の出土も多い。

古墳時代には、菊池川下流域では前方後円墳の山下古墳、院塚古墳などが築かれ、中期から後期にかけては装飾古墳・横穴が多く分布する。集落については、柳町遺跡で古墳時代前期の集落が調査された。

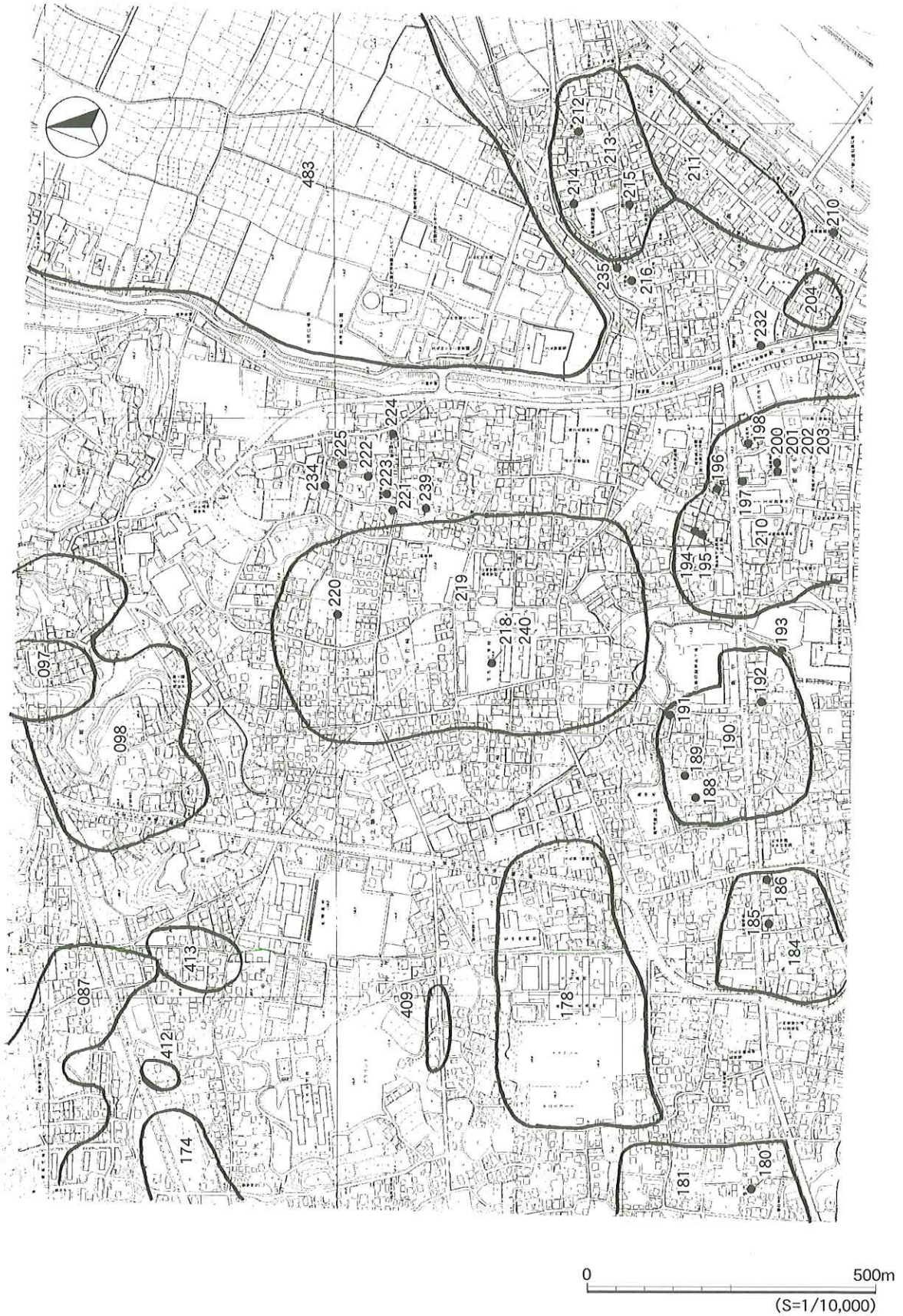
古代には、立願寺の丘陵上においては玉名郡司の氏寺と推定される立願寺廃寺、谷を挟んだ東側の丘陵には玉名郡倉、郡家と水駅を直線的に連結させる、両端に側溝を有し、唐尺12尺の郡街道が調査により確認されている。また南出の現JR玉名駅周辺部では、大湊遺跡（水駅）が想定されている。立願寺廃寺では、市史編纂事業に伴う発掘調査が行われており、さらに現在は周辺が宅地化しつつあり、市道建設に伴う調査や専用住宅に伴う確認調査など、調査例が増えている。

古代から中世にかけては玉名地方にも荘園が成立したと考えられており、現在の荒尾市、長洲町方面の野原荘、現在の玉名市西側と岱明町方面の大野別符、玉名市東側の伊倉別符、菊水町方面の仁和寺領（王家領）玉名荘と玉名市安楽寺方面の安楽寺領玉名荘、南関町方面の白間野荘などが知られている。野原荘は宇佐弥勒寺喜多院を領家とし、岩清水八幡宮寺を本家としていたようである。鎌倉時代には関東御家人の小代氏が地頭職を得て、その後戦国時代に至るまで一貫して地頭職を継いだ。大野別符は筥崎宮領で、岩清水八幡宮寺を本家としていた。伊倉別符は玉名郡司の日置氏の所領であったが、のちに宇佐八幡宮の所領になっている。

鎌倉幕府の成立前後は、玉名地方でも武士化した勢力が成長していったと考えられるが、元寇の際には菊池氏とともに玉名地方からも大野氏などが参加しているため、当時の武士団の存在が窺い知れる。さらに南北朝の動乱期には玉名地域においては大野氏や高瀬氏などは菊池氏と共に南朝方として活動していたようで、北朝方に付いた小代氏と対抗している。

岩崎城跡が所在する岩崎村は大野別符内に所在する。大野別符は現在の高瀬、立願寺、築地などの玉

第II章 発掘調査の概要



第2図 岩崎城跡周辺遺跡分布図

第Ⅱ章 発掘調査の概要

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	備考
086	糠峯古墳	山田 糠峯	古墳	古墳		独立小南山斜面、箱式石棺・祠とする
087	糠峯	山田 糠峯	中世	包蔵地		独立小南山斜面開墾で出土、糸切り皿多量
097	玉名郡倉跡	立願寺 西の段	古代	包蔵地	市	礎石7個配列
098	下立願寺	立願寺 西の段	縄文～中世	集落		単式甕棺、弥生土器片散布
103	松尾	立願寺 松尾など	古墳	包蔵地		土師器・須恵器片散布
114	上立願寺石天神	立願寺 塔の尾	古墳	寺社		神体は立願寺跡の礎石か
172	高岡城跡・高岡古墳	山田 高頭	古墳～中世	包蔵地		墓（お姫さん、高岡城主の女）、馬頭骨・鉦澤。
173	高岡古墳	山田 高頭	古墳	古墳		古墳（高岡古墳）、墓地内に大石材堆積。
174	高岡原	山田 高岡原	弥生・古墳	包蔵地		土師器・須恵器・弥生土器片散布
175	高岡いっちょう畑箱式石棺	山田 高岡原	弥生	埋葬		箱式石棺のみ露出
178	玉名高校々庭	中 楮林	弥生・古墳	包蔵地		弥生土器・土師器包含、石斧も出土
179	田島地下式横穴	中 田島	古墳	古墳		2基並列、出土物なし
180	春出丸塚	中 寺畑	中世	包蔵地		春日神社北、繁根木八幡旧社地説
182	春出	中 陣内	古墳	包蔵地		須恵器・土師器・弥生土器
183	春日山伏塚	中 春日出	古墳～中世	墳墓		題目・福宗・善八と銘あり
184	南出	中 内田	弥生	包蔵地		弥生カメ棺、合口カメ棺。青磁碗、玉名高校蔵
185	南出地下式横穴	中 内田	古墳	古墳		国道208号沿い、近くは弥生以降遺跡
186	南出甕棺群	中 内田	弥生	埋葬		国道208号沿い、近くは弥生以降遺跡
187	だいの島古墳	中（通称だいの島）	古墳	古墳		玉名駅南、台地南凸端、箱棺
188	肥後同田貫刀鍛冶跡	亀甲 上畑・内田	中世	生産		広範囲に鉦澤・羽口埋蔵、子孫分住、刀鍛冶跡
189	肥後同田貫歴代刀工の墓	亀甲 上畑	中世	墓地		初代～12代？墳墓7基あり、同田貫刀工
190	玉名亀甲	亀甲	縄文～中世	包蔵地		
191	上畑丸塚	亀甲 上畑	縄文～中世	包蔵地		国道208号北入、墓地の一隅円状封土
192	円秀寺跡	亀甲 東	中世	寺社		凸版工場南、跡地に地藏堂あり
193	坂下会所跡	繁根木 馬場	近世	包蔵地		
194	豪潮宝篋印塔	繁根木 堂の後	中世	石造物	市	法務局裏墓地内、文化5年建立、市内3つの1つ
195	高瀬藩士墓	繁根木 堂の後	近世	墓地		法務局裏墓地内、2基
196	伝左山古墳	繁根木 北	古墳	古墳	市	国道208号沿線径37mの円墳、出土品多量
197	繁根木地下式横穴群(4基)	繁根木 馬場	古墳	古墳		国道208号沿線、出土品なし
198	繁根木山寿福寺跡	繁根木 馬場	中世	寺社		国道208号南沿線、跡地郡役所をおく
199	築地那木野	築地 那木野	古墳	包蔵地		須恵器・土師器類を包含する
200	稲荷山古墳(他4石碑)	繁根木 馬場	古墳	古墳		八幡宮裏、前方後円墳の封土、朝顔埴輪
	豪潮法華妙典一字一石塔	繁根木 馬場	中世	石造物		八幡宮裏墓地、豪潮建立、法華経
	補陀落渡海碑	繁根木 馬場	中世	石造物	市	稲荷山古墳後円部上、永禄11、方圓・善心・道圓
	稲荷山薬師堂跡	繁根木 馬場	中世	寺社		稲荷山古墳後円部上、法隆寺系布目瓦大量
	宮の後豪潮宝篋印塔	繁根木 馬場	中世	石造物		八幡宮裏、明和4年豪潮19才建立
201	繁根木遺跡群	繁根木	弥生	包蔵地		稲荷山古墳の最下層、弥生土器群あり
202	繁根木貝塚	繁根木 馬場	縄文	貝塚		八幡宮境内全域、町筋南側、JR線路
203	繁根木箱式石棺(繁根木古墳)	繁根木 馬場	古墳	埋葬		八幡宮東、大正初期、方格矩文鏡を出す
204	宝成就寺跡(古塔碑群・石仏群)	高瀬 下町	中世	包蔵地	市	多くの古塔碑・石仏を残す、跡地小学校建つ
210	高瀬眼鏡橋	高瀬 下町	近世	建造物	県	高瀬裏川にかかる、嘉永元年二重拱橋
211	高瀬本町通	高瀬 保田木町など	縄文～近世	包蔵地		地道路3.5mの下層、鎌倉期の遺物大量出土
212	保田木貝塚	高瀬 保田木町	縄文	貝塚		城跡神社境内全域、阿高式中心
213	保田木城跡-高瀬町奉行所跡	高瀬 保田木町	中世～近世	城		保田木神社内、外濠一部残存、高瀬城ともいう
214	高瀬山清源寺跡	高瀬 保田木町	中世	寺社		保田木城西隣、墓地のみ残る
215	龍造寺隆信首塚	高瀬 横町	中世	墳墓		願行寺境内、主体は明治4年佐賀に移す
216	大覚寺豪潮宝篋印塔	高瀬 横町	中世	石造物		大覚寺本堂前、市内3基の1つ
217	高瀬菊池川河床	菊池川河床	古代・中世	包蔵地		
218	高瀬藩邸・藩丁跡	岩崎 中岩原	近世	包蔵地		玉名町小・玉名女子高敷地、現在形跡なし
219	岩崎原	岩崎（通称岩崎原）	弥生～中世	包蔵地		玉名女子高敷地内全、弥生土器多量、住居跡
220	岩崎A	岩崎 池田	弥生～中世	包蔵地		大型甕棺・土師器・須恵器・弥生土器多量包含
221	岩崎城跡	岩崎 池田	中世	城		菅原神社々地、土壘・周濠あり
222	伝岩崎城主の墓	岩崎 池田	中世	墓		城跡北の一角、大自然石、板碑あり
223	岩崎古墳	岩崎 池田	古墳	古墳		菅原神社神体とする、箱棺か
224	岩崎古墳参考地	岩崎 池田	古墳	古墳		部落東端、円墳形、天満宮を記る
225	池田地下式横穴群	岩崎 池田	古墳	古墳		
231	芭蕉句碑（秋風塚）	中 寺畑	近世	石造物		玉名駅前妙性寺内、自然石に刻句
232	芭蕉句碑（時雨塚）	高瀬 横町	近世	石造物		繁根木川左岸明教寺内、自然石に刻句
233	金盆山玉飯寺跡	川崎 出の上	中世	寺社		川崎八幡宮寺墓地のみのこる
234	池田支石墓参考地	岩崎 池田	弥生	埋葬		城内に安山岩巨石1個
235	高瀬官軍墓地	高瀬 横町	近代	墓地		昭和36年発掘改葬、合祀する
236	阿弥陀如来鍔立像	繁根木 馬場	中世	彫刻	市	
237	長福寺跡	高瀬 八日町	中世	寺社		
239	岩崎B	岩崎 池田	縄文～中世	包蔵地		
240	高瀬藩校自明堂跡	岩崎 中岩原	近世	包蔵地		
241	玉名御郡所跡	繁根木 馬場	近世	包蔵地		
483	玉名平野条里跡	玉名、迫間ほか	古代・中世	生産		

第1表 岩崎城跡周辺遺跡一覧

名市西側と、岱明町の一部を含む一帯で、高瀬の隣接地繁根木には荘鎮守と考えられる繁根木八幡宮とその神宮寺の寿福寺があった。繁根木八幡宮は現在も所在する。大野別符の具体的な成立に関しては不明な点が多いようである。「岩清水文書」によると、嘉禎3（1237）年には筥崎宮領で、岩清水八幡宮寺が本家の荘園として成立していたようである。

大野氏については、「大野家由緒書上」によると、建久4（1193）年大野小次郎紀国隆が、関東御教書によって玉名郡内の内大野250町を給せられて関東から下向してきたとある。そして中尾高岡屋敷を本拠地として、嫡子中村太郎時隆には高瀬中村55町、二男築地二郎国秀には築地55町、三男大野三郎秀隆には居屋敷55丁を配分したとされる。その他に5人の女子がおり、そのうちの1人が岩崎にて姓を名乗ったとするが、資料自体が、紀宗善によって前代の家の由来を記したもので、そのまま当時の実態を示すものではないようである。平安時代後期には、玉名西郷の郡司が紀氏であり、応和元（961）年に紀氏が繁根木八幡宮を覬請したとも伝えられている。したがって、大野氏は在地の、直接荘園成立に関わった開発領主であったという見方が強い。

岩崎氏については、「蒙古合戦勲功賞配分状」（深江文書）によると鎮西奉行少式経資・大友頼泰が、蒙古合戦の賞として正応4（1298）年に大野岩崎太郎に肥前国神崎荘内の田畠・屋敷を配分したとされる。また、「岩崎隆貞寄進状」によると、岩崎隆貞が天授2（1376）年に玉名西郷大野別符岩崎村田地壹段を清源寺に寄進したとされる。これらのことから鎌倉時代後半～室町時代にかけての岩崎氏の存在が窺い知れる。また、「肥後国誌」によると、岩崎常陸守墳墓が岩崎村内にあるという記載もあり、今回の調査区周辺がその比定地と伝えられている。

また、岩崎村に関連して、鎌倉時代終わり頃、安富氏が地頭職を得るようになる。安富氏は、もともと東国御家人で、肥前国高来郡深江村の地頭職を得て下向し、その後深江村を本拠地としている。安富氏に関して記載されている「深江文書」によると、鎌倉幕府が、瑠璃童女の跡を受けて、安富頼泰の岩崎村の知行を安堵したとされる。それ以来、安富氏が岩崎村の地頭職を得ていたようである。「深江文書」には、安富氏の岩崎村を所領することに関しての記述が頻繁に出てきており、少なくとも安富氏は室町時代中ごろまでは岩崎村を所領していたとみられる。

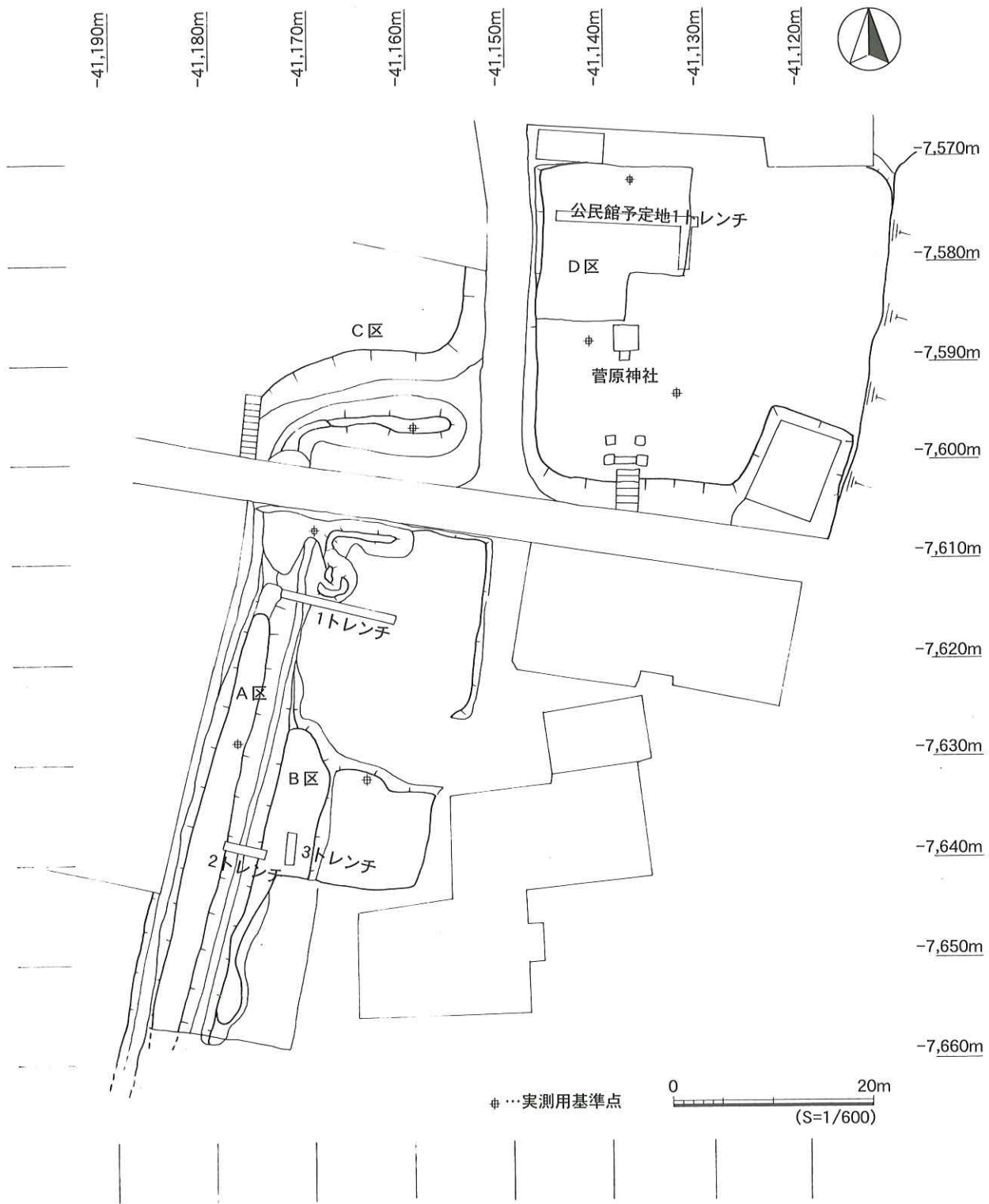
戦国時代にかけては、菊池氏の勢力の衰えと共にまず豊後の大友氏が肥後に勢力を伸ばし始めた。その後龍造寺氏、島津氏が進出してくるが、その間玉名地方及び周辺の武士団も各戦国大名の進入に伴いそれぞれ抗争を繰り広げている。そして豊臣秀吉の島津討伐の後、佐々成政を経て加藤氏の治世に入る。

### 第2節 玉名地方の中世城

大野別符内（現玉名市、岱明町）に所在したと思われる城館を示したのが第2表であり、多くはそれぞれ大野氏一族の城又は居館に比定されている。このうち、日嶽城が山頂に築かれた山城であり、その他は平地又は緩やかな丘陵上に築かれている。現在城跡によっては土塁や水路などが確認されるものもあるが、宅地化などでその名残を留めているのは少ないようである。具体的な存続年代等が窺い知れるものは、日嶽城、上村城、下村城、高道城などであり、天正年間に龍造寺氏や小代氏によって攻め落とされたと伝えられている。

岩崎城跡については、城主が岩崎氏とされるが、直接城跡に関する文献は見つかっていないようである。今回の調査区に隣接する菅原神社境内が、方形に区画されたようになっており、岩崎城の中心であ

第II章 発掘調査の概要



第3図 岩崎城跡確認調査トレンチ配置及び調査区位置図

## 第Ⅱ章 発掘調査の概要

るとも云われていた。城域については、縄張り調査等の記録はないようである。

名称	所在地	(伝) 城主	備考
高瀬城	玉名市高瀬字保田木	高瀬氏一族	
高岡城	玉名市山田字高岡	大野氏	
岩崎城	玉名市岩崎字池田	岩崎氏	
下村城	岱明町大字大野下字内野	龍造寺隆信	
上村城	岱明町大字上字馬場原	築地国秀・大野光隆	
築地次郎国秀館	岱明町下前原字宅地	築地国秀・前原秀親	
高道城	岱明町大字高道字城内	池松貞胤(大野一族)	
日嶽城	岱明町大字開田	大野氏	
築地館	玉名市築地字陣内	大野氏	
中土館	岱明町中土字寺前		
扇崎北垣右京居館	岱明町大字扇崎字明神尾	扇崎北垣右京	

第2表 玉名地方(大野別符内)中世城一覧 (『熊本県の中世城』より)

### 第3節 確認調査

岩崎城跡の確認調査は、まず農地造成工事予定地について平成12年5月23日から24日にかけて行った。工事対象区内に3ヶ所トレンチを設け、重機により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果1、2トレンチで溝状遺構が確認され、現況より更に2m以上掘られていたことがわかった。3トレンチでは遺物包含層と弥生時代の住居址とみられる遺構を確認した。溝状遺構からは遺物の出土は極めて少なく、時期の想定は困難であったため、発掘調査での更なる確認が必要と思われた。

道路を挟んだ北側の敷地においては、南北岩崎区公民館建設工事に伴い平成13年4月18日に確認調査を行った。当地は菅原神社の敷地の北側隣接地であり、岩崎城の中心ともいわれており、岩崎城に関連する掘立柱建物等の検出も想定された。確認調査では、工事予定地内にL字型にトレンチを設け、重機により掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。その結果弥生時代の住居址を確認した。

以上の結果から発掘調査では城跡に関連した遺構の検出、岩崎城の時代や岩崎城の範囲の推定などの点に留意し発掘調査を行う必要があると思われた。また、弥生時代の集落跡の可能性も考えられることから、その調査も必要であった。

### 第4節 調査の方法及び経緯

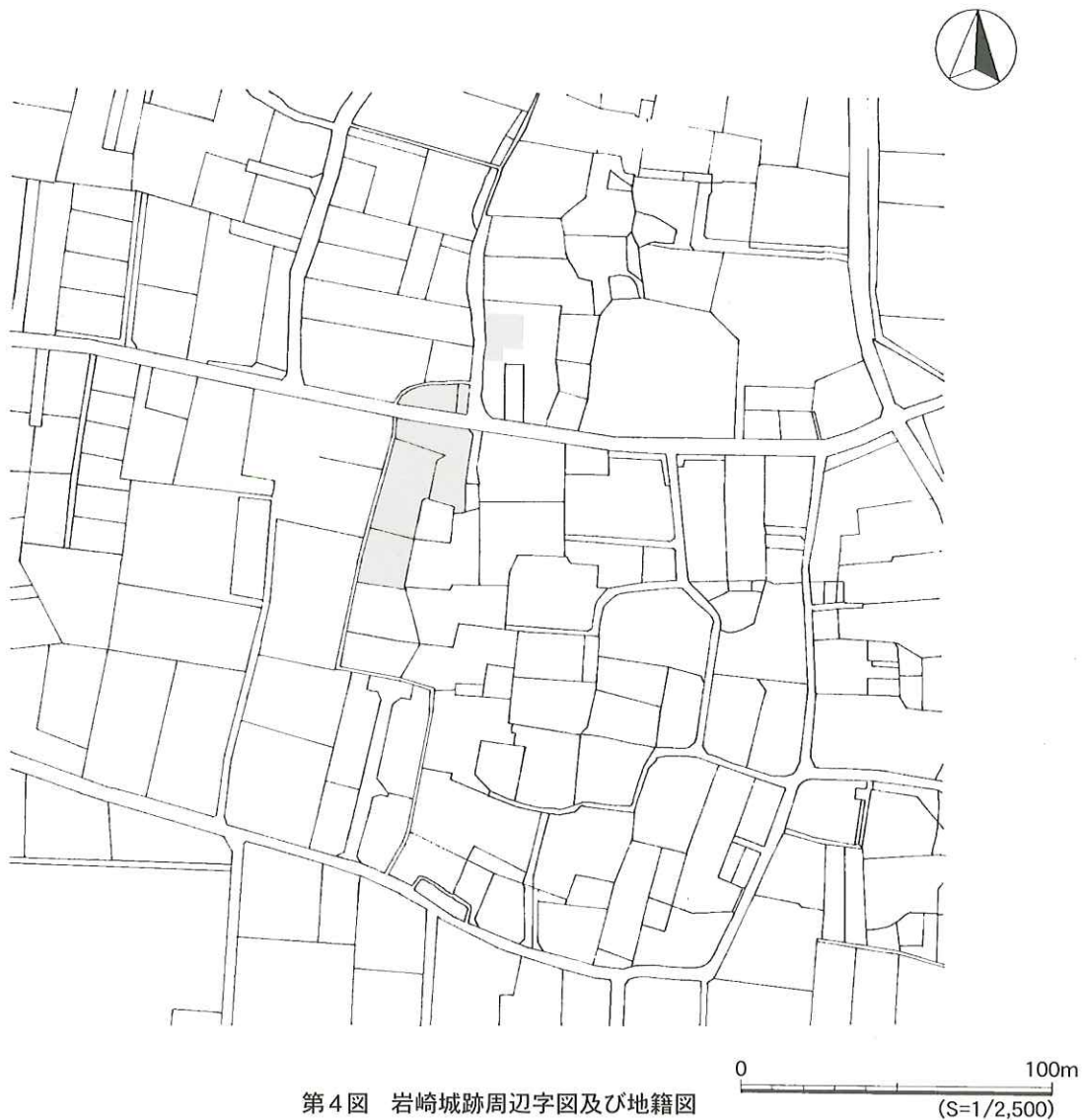
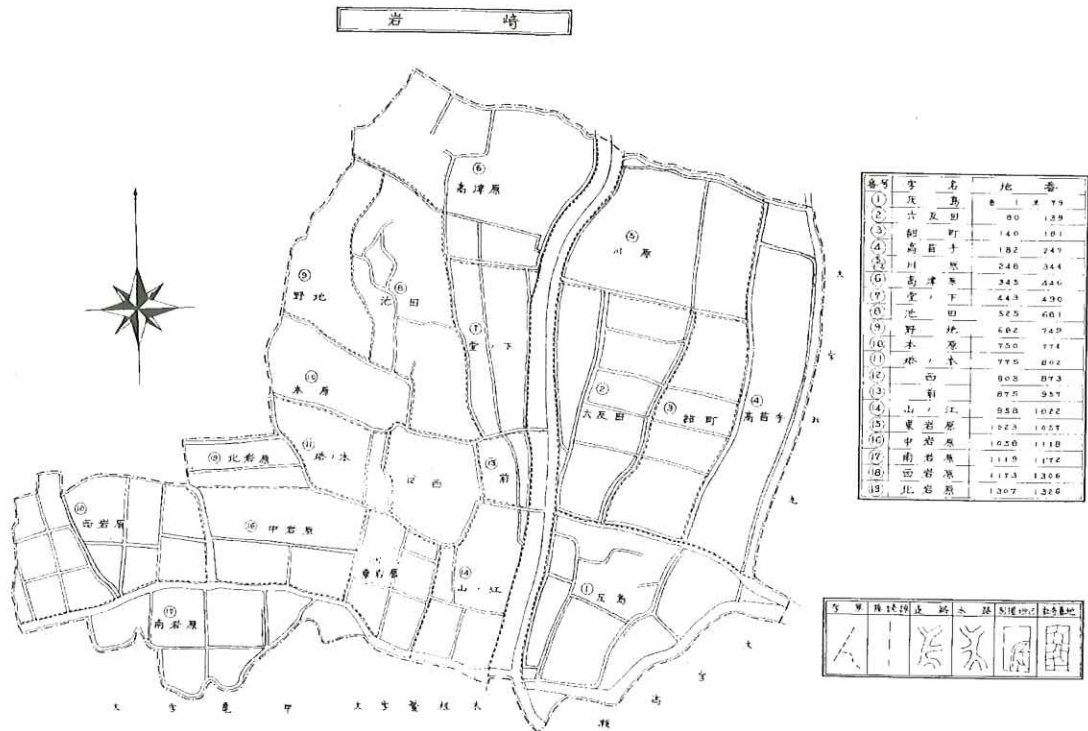
発掘調査においては、まず調査対象区内の現状で確認できる2重の堀のうち、西側をS01、東側をS02とした。調査区の設定についてはS01とS02に挟まれた土塁状部分をA区、S02より東側をB区、道路部分より北側をC区、菅原神社北側の公民館建設予定地をD区とした。(第3図)

測定の基準点は、昭和56年地籍図根三角測量座標計算簿に記載されている基準点を利用した。調査区から南東約150m離れた玉名女子高等学校屋上にある補助三角点と、南東約200m離れた玉名町小学校屋上にある補助三角点を基に、光波側距儀を用いて調査区内に測定の基準となる杭を設け、調査中の実測はその杭を用いて行った。

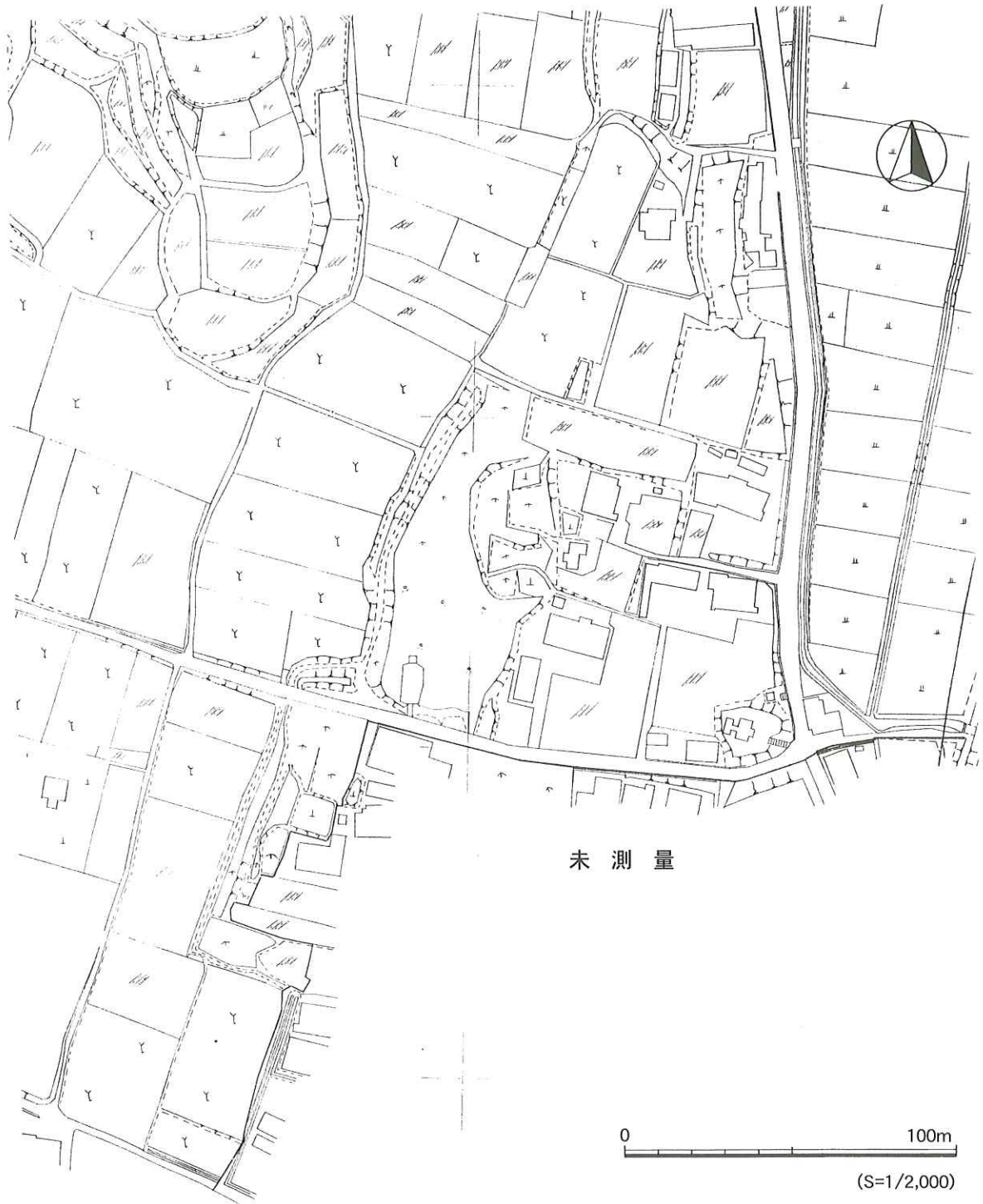
今回の調査で確認した層位は以下のとおりである。

- I. 表土(腐葉土、耕作土等)
- II. 暗褐色土(7.5YR3/3) やや締まり粘性なく、ぼろぼろしている。荒砂、小礫片含む。竹根多く入り込む。A区の土手状部分でのみ確認した層で、S01、02の掘削時の盛土と考えられる。中世の遺物

第II章 発掘調査の概要



II 平成11年度の調査



第5図 調査区周辺測量図（昭和40年代）





## 第Ⅱ章 発掘調査の概要

を少量含む。

Ⅲ. 黒褐色土 (7.5YR3/2) 締まってやや粘性有す。細かい砂粒・焼土炭化物わずかに含む。弥生～中世の遺物含む。

Ⅳ. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 締まってやや粘性有す。焼土・炭化物わずかに含む。Ⅲ層よりやや粘性が強くなる。弥生～中世の遺物含む。

Ⅴ. 暗褐色土 (7.5YR3/4) 締まって粘性有す。細かい砂わずかに含む。上面が弥生時代の遺構検出面。

Ⅵ. 褐色土 (7.5YR4/3) 締まって粘性有す。細かい砂・礫片わずかに含む。Ⅴ層が明るくなったような層。Ⅴ層～Ⅵ層にかけては漸移的に色調が明るくなる。

Ⅶ. 褐色土 (7.5YR4/4) 締まっているが粘性有しない。荒い砂・礫片・小石などが固まったような層。粒子が荒くガリガリする。場所によっては、サラサラした砂で形成される部分もあり、堆積の変化が激しい。

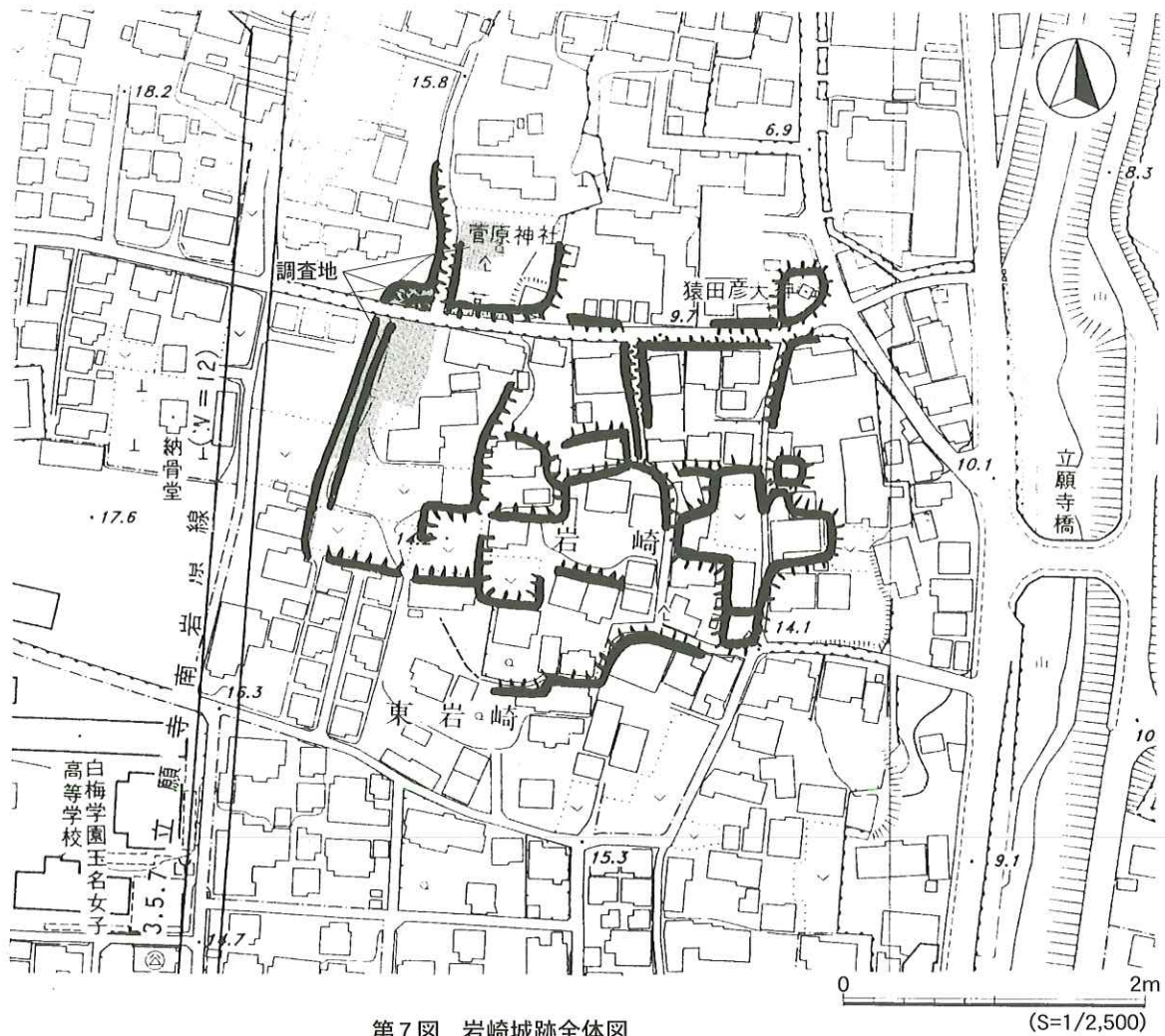
このうちⅠ層を重機により掘削し、任意に土層観察用のベルトを残してⅡ層以下を人力で掘削した。Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ上面で遺構検出を試みたが、Ⅱ・Ⅲ層までは竹根が深く入り込み、掘り下げ作業と遺構検出は非常に困難であり、遺構は確認できていない。Ⅴ層上面で弥生時代の遺構を検出した。Ⅴ～Ⅶ層に関しては、Ⅶ層まで掘りぬいているS02の壁面で観察を行ったところ、遺物は確認できなかったため、無遺物層と判断して掘削は行わなかった。工事予定地内の、Ⅶ層まで大きく削平されている部分については、遺構の残存の可能性が極めて低いと判断して全体的な掘削は行っていない。造成工事は、起伏がある敷地内を平坦に均す工事であり、S01、02は深度があるため、工事時の掘削が及んでいない遺構の低位の部分についてはまだ敷地内に存在している。

S02については掘り下げ後に1/50スケールで行った。弥生時代の遺構はⅤ層上面で検出し、切り合い等を確認した後、番号を付して掘り下げた。遺構の掘り下げ後、住居址、土坑等の実測は、主に1/20スケールで行い、部分的に細部が必要な場合は1/10スケールで行った。

調査時の写真撮影は、S02を掘り下げた段階で遺跡全体と今回の調査区全体について空中写真撮影を行った。弥生時代の遺構などは、35mmのリバーサルおよびモノクロフィルムによる撮影を行った。

### 第三章 岩崎城跡の調査

今回の調査では、岩崎城に伴うと考えられる主な遺構として、S 01、02 とその間の土塁状遺構を検出した。それらは現状でも確認でき、従来から城跡に関連する遺構として考えられていた。以下、調査した遺構、遺物について述べてゆく。



第7図 岩崎城跡全体図  
(西田作図、末永製図)

#### S01 (第8図)

調査区の最も西に位置する遺構で、岩崎城跡の西側の外側に位置する堀状の遺構だったと思われる。現状で確認できる規模は、南北約90mほどで、北側はさらに西に折れ曲がり、コーナー部分を形成してさらに東に20mほど延びている。南側は水路になっており、コンクリート擁壁工事がなされ西側に折れ曲がる。堀の幅は南側で約2.5m、北側のC区では約7mを測る。深さは現況では南側で50cmほどであるが、北側になるにつれ東側の土塁状遺構との比高差は1.3mほどになる。(第11図) その部分ではさらに70cmほどで堀の底部が確認できた。G-G'の部分については、現状でも深さ約3.2mの堀状を呈し、トレンチでさらに1.6mほど掘り下げたが底部は確認できなかった。掘り下げた部分では、最近まで不法投棄の場であったらしく現代のゴミが厚く堆積しており、確認した深さの下位の層からも近・現代の瓦が出土した。

#### 土塁状遺構 (第8,9図)

S01とS02の間の部分を土塁状遺構とした。現況でもよく残っており南北60mほどが確認でき、道路の北側のC区で東西15mほどが確認できる。規模は幅約5m、高さ1m～3.2mで、北側ほど顕著に高くなる状況である。土塁状遺構の層位はI～V層までを確認したが、このうちII層については盛土と判断しており、S01、02の掘削時に積み上げた部分と考えている。I層についてはほとんど竹林の腐葉土で判断がつかないが、土塁状遺構はもう少し高さがあった可能性がある。

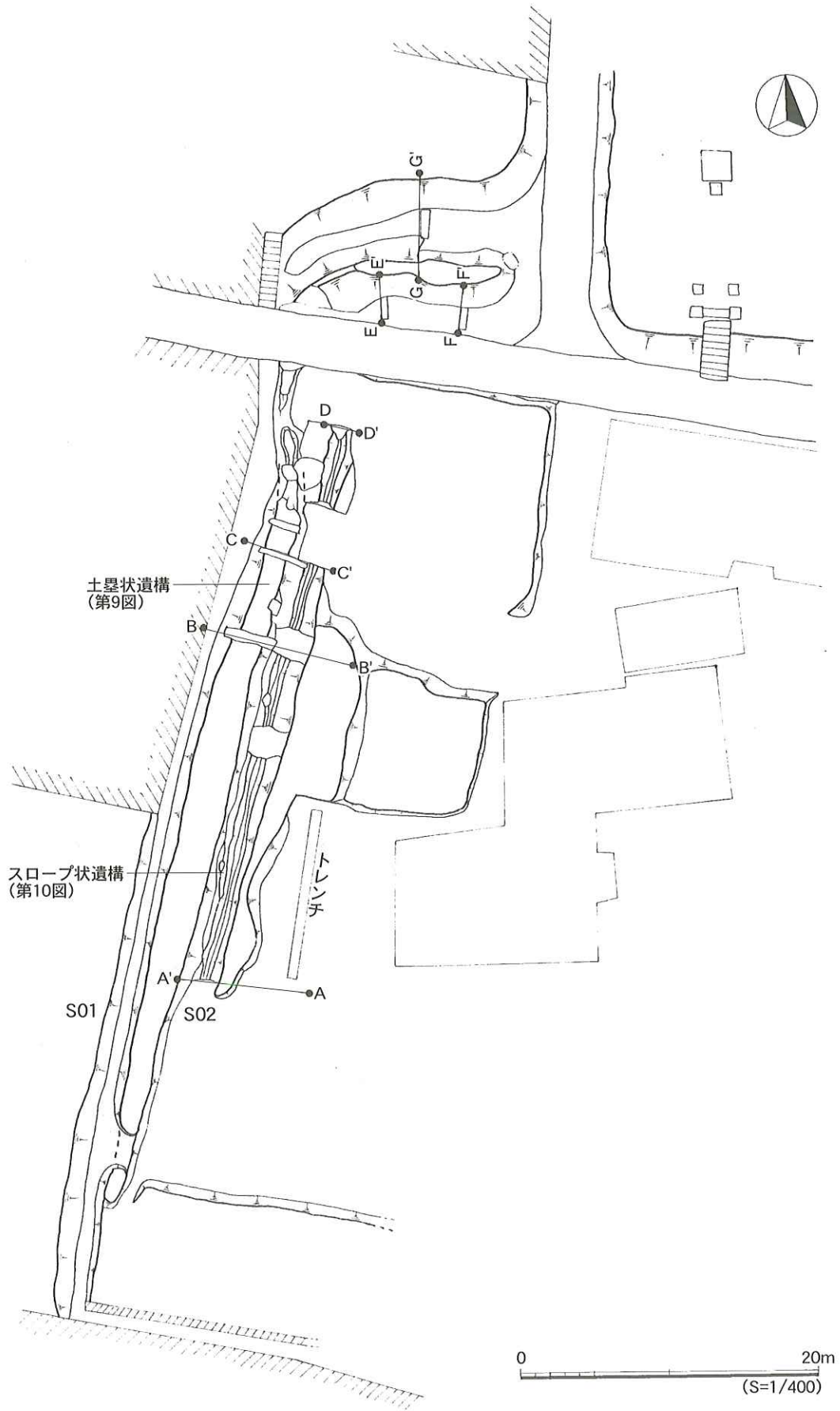
#### S02 (第8図)

S01や土塁状遺構と並行して南北および東西にのびる遺構である。掘削した範囲は、50mほどでC区についてはトレンチを設定して掘り下げを行った。規模は現況で南北50m、幅約4m、深さ約1mを測る。発掘調査では、土塁状遺構の最高部から底部まで4m以上(F-F')を測り、底部は北側に向け緩やかに傾斜している。C区の土塁状遺構の南側に設定した1、2トレンチでも溝状に掘削されておりS01と同様に現在の道路部分で折れ曲がり、東西に延びていることが分かった。さらに神社敷地の西側での側溝工事で地山と覆土の境を確認したため、S02は神社の南側まで延びていたようである。神社敷地と南側の道路との高低差はmほどであるが、その高低差は東西に延びていたS02の北側法面だった可能性が高い。S02の南側は今回の調査区南側にかけても土塁状遺構と並行して延びていると考えられる。

断面の形状は、壁の立ち上がりの傾斜が途中まで緩やかで、中位から急な角度になる漏斗状を呈する。幅は中位で約1mを測る。堆積の状況は、中位から下位にかけては部分的にブロック状の粘土やVII層に近似する砂が混ざったような層位で、短期間で埋められたような状況である。上位にかけては、聞き取りによると近年まで深さが現況よりさらに1m以上あったということであるため、何回かの掘り返しがあったかもしれないが、近年にかけて次第に埋没していった状況が窺える。遺物は覆土の上位から弥生時代～現代の遺物が出土しているが、中位から下位にかけては小片のみで時期を判断できる遺物は出土しておらず、最下層からも土器片の出土はなかった。堀の壁面や底面においては柵列等の遺構の存在も想定してピットの検出にも努めたが、確認出来なかった。

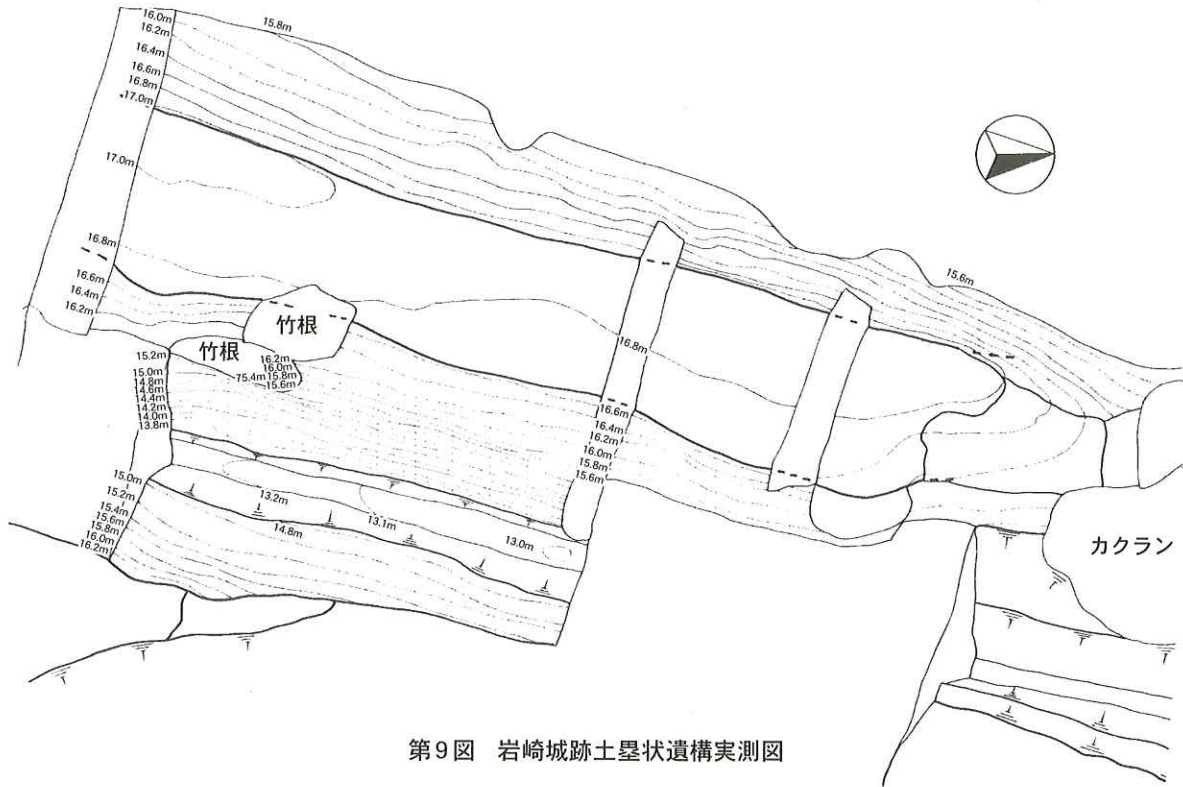
#### スロープ状遺構 (第8,9図)

S02内で検出した。西壁の一部をテラス状に掘られている部分があり、それが底部まで傾斜しておりスロープ状を呈する。規模は長さ約10m以上、幅約60cm、確認した範囲での高低差約1mである。S02の底部から土塁状遺構の東側を登っていくように位置し、上部は調査区外に延びているようである。

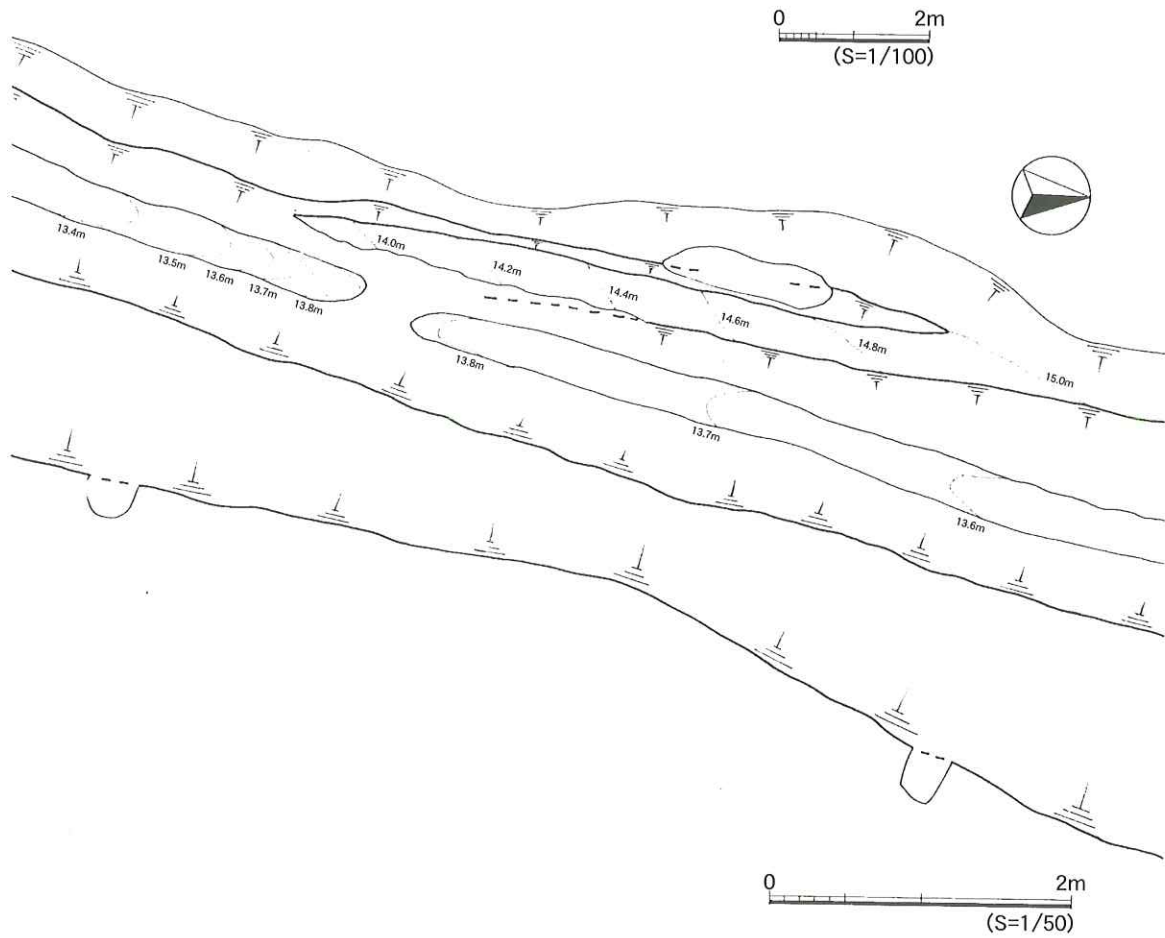


第8図 岩崎城跡堀状遺構全体図 (S01、S02)

第三章 岩崎城跡の調査

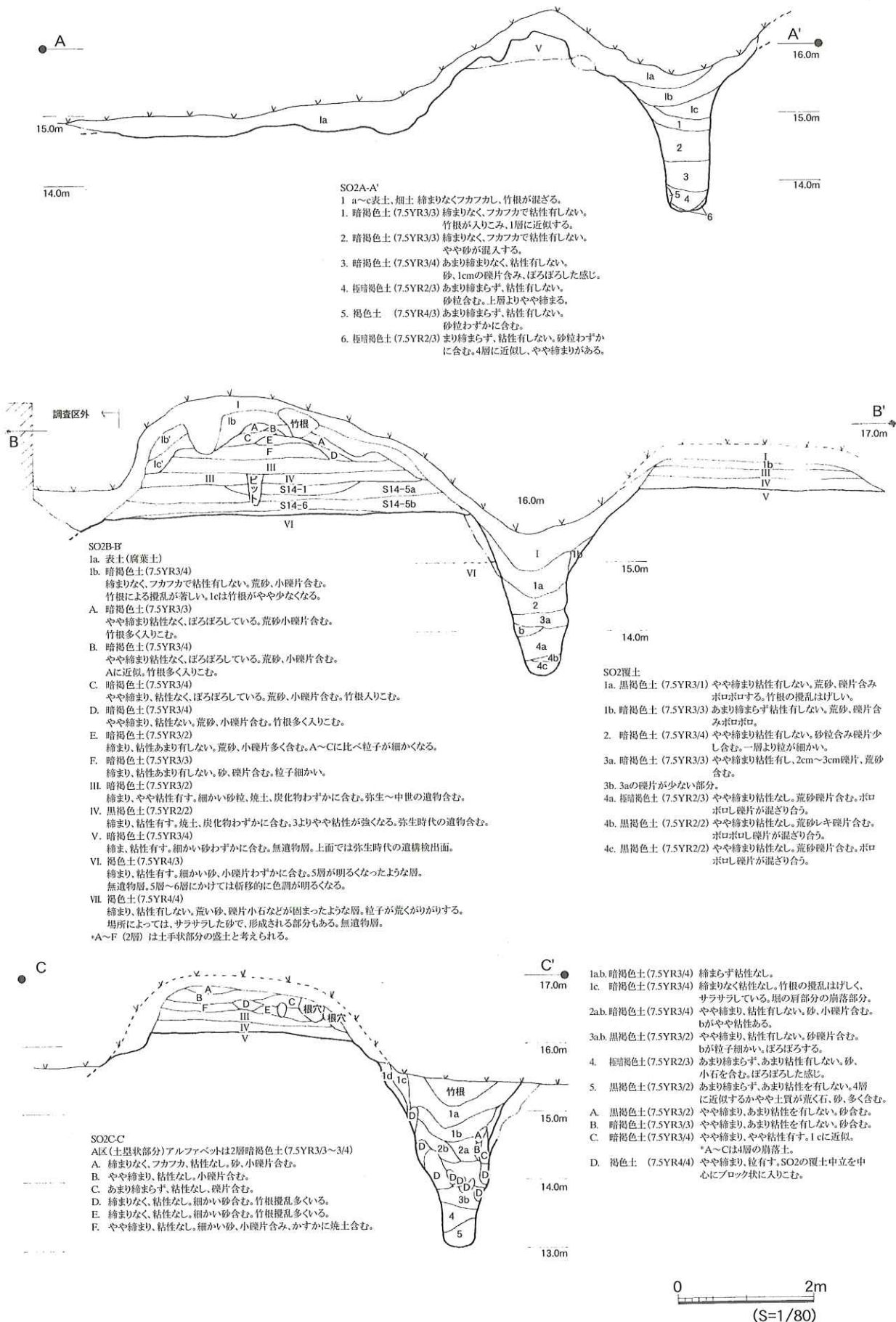


第9図 岩崎城跡土塁状遺構実測図



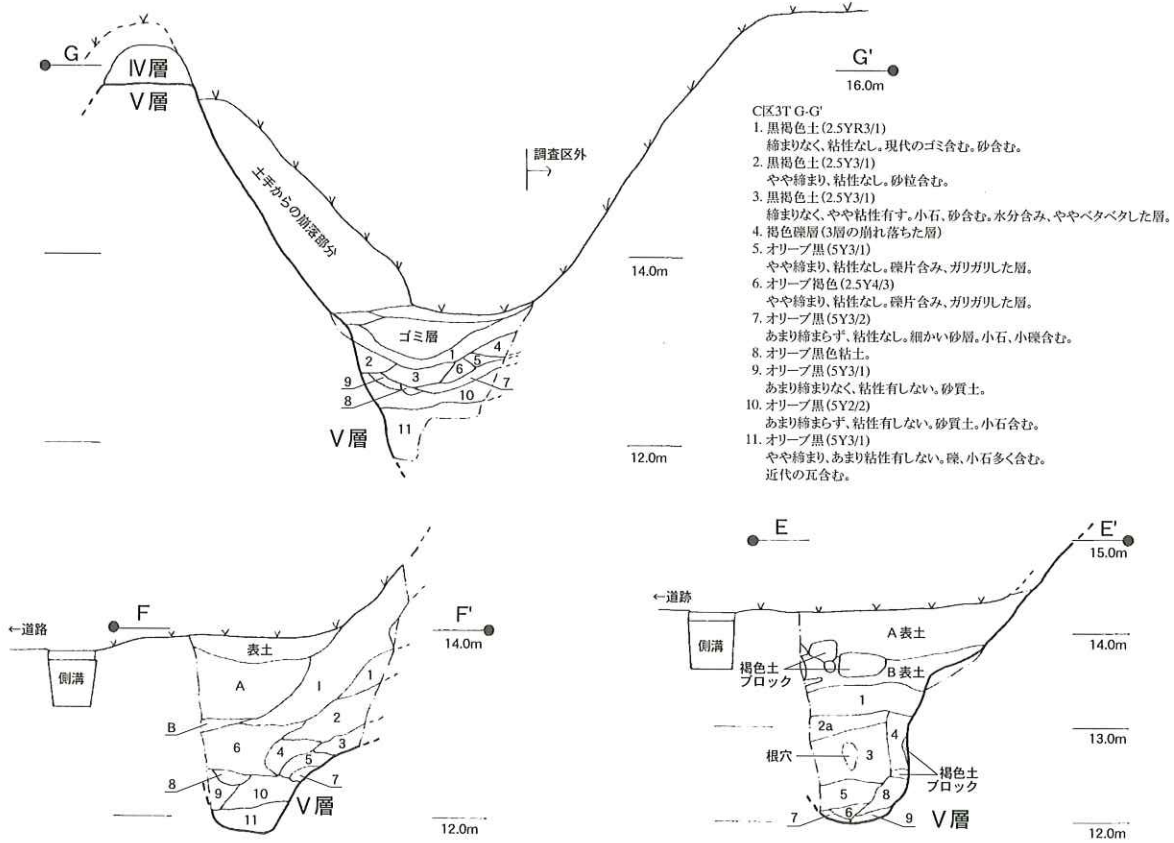
第10図 S02スロープ状遺構実測図

### 第三章 岩崎城跡の調査



第11図 岩崎城跡土層断面図①

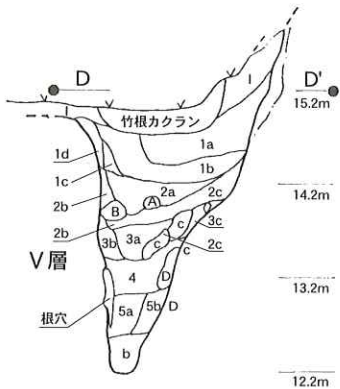
第三章 岩崎城跡の調査



- C区3T' G-G'
1. 黒褐色土 (2.5YR3/1)  
締まりなく、粘性なし。現代のゴミ含む。砂含む。
  2. 黒褐色土 (2.5Y3/1)  
やや締まり、粘性なし。砂粒含む。
  3. 黒褐色土 (2.5Y3/1)  
締まりなく、やや粘性有す。小石、砂含む。水分含み、ややベタベタした層。
  4. 褐色礫層 (3層の崩れ落ちた層)
  5. オリーブ黒 (5Y3/1)  
やや締まり、粘性なし。礫片含み、ガリガリした層。
  6. オリーブ褐色 (2.5Y4/3)  
やや締まり、粘性なし。礫片含み、ガリガリした層。
  7. オリーブ黒 (5Y3/2)  
あまり締まらず、粘性なし。細かい砂層。小石、小礫含む。
  8. オリーブ黒色粘土
  9. オリーブ黒 (5Y3/1)  
あまり締まりなく、粘性有しない。砂質土。
  10. オリーブ黒 (5Y2/2)  
あまり締まらず、粘性有しない。砂質土。小石含む。
  11. オリーブ黒 (5Y3/1)  
やや締まり、あまり粘性有しない。礫、小石多く含む。近代の瓦含む。

- C区2TF-F
- ※A,B7層に近似する褐色礫質土。VII層の2次堆積と思われる。
1. 明褐色土 (7.5YR5/6)  
締まり、粘性なし。礫多く含む、ガリガリした層。VII層の崩落部分。
  2. 褐色土 (7.5YR4/4)  
締まり、粘性なし。礫片含み、ボロボロした層。
  3. 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
あまり締まらず、粘性なし。礫片含み、ボロボロした層。
  4. 褐色土 (7.5YR4/4)  
やや締まり、やや粘性有す。砂粒含み、礫片少量含む。
  5. 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
やや締まり、やや粘性有す。砂粒含む。
  6. 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
やや締まり、あまり粘性有しない。砂粒わずかに含み、ボソボソ
  7. 褐色砂質土 (7.5YR4/6)  
やや締まり、粘性なし。粒細かい。
  8. 黒褐色土 (7.5YR3/2)  
やや締まり、あまり粘性有しない。小礫片わずかに含む。
  9. 黒褐色土 (7.5YR3/2)  
やや締まり、あまり粘性有しない。8,9層よりやや粘性がある。
  10. 黒褐色土 (7.5YR3/2)  
やや締まり、あまり粘性有しない。部分的に砂含む。
  11. 黒褐色土 (7.5YR2/2)  
あまり締まらず、あまり粘性有しない。荒砂、礫片多く含む。
- ※1~7層は土手部分からの崩落した部分。

- CKITE-E'
- ※A,B表土、コンクリート破片等含む
1. 黒褐色土 (7.5YR3/1)  
やや締まり、粘性有しない。小石、礫片多く含む。
  - 2a. 黒褐色土 (7.5YR3/1)  
やや締まり、あまり粘性有しない。砂、礫片含む。2bは砂質土の部分。
  3. 黒褐色土 (7.5YR3/4)  
やや締まり、粘性有す。砂粒、小礫片少量を含む。
  4. 暗黒褐色土 (7.5YR2/3)  
やや締まり、粘性有しない。礫片多く含む、ガリガリした層。
  5. 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
やや締まり、あまり粘性有しない。細かい砂含む。
  6. 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
やや締まり、あまり粘性有しない。細かい砂含む。5層よりサラサラした層。
  7. 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
やや締まり、やや粘性有す。
  8. 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
やや締まり、あまり粘性有しない。砂少量含む。部分的に褐色粘性土をブロック状に含む。
  9. 黒褐色砂質土 (7.5YR3/2)  
あまり締まらず、粘性有し、荒い砂でボロボロした層。

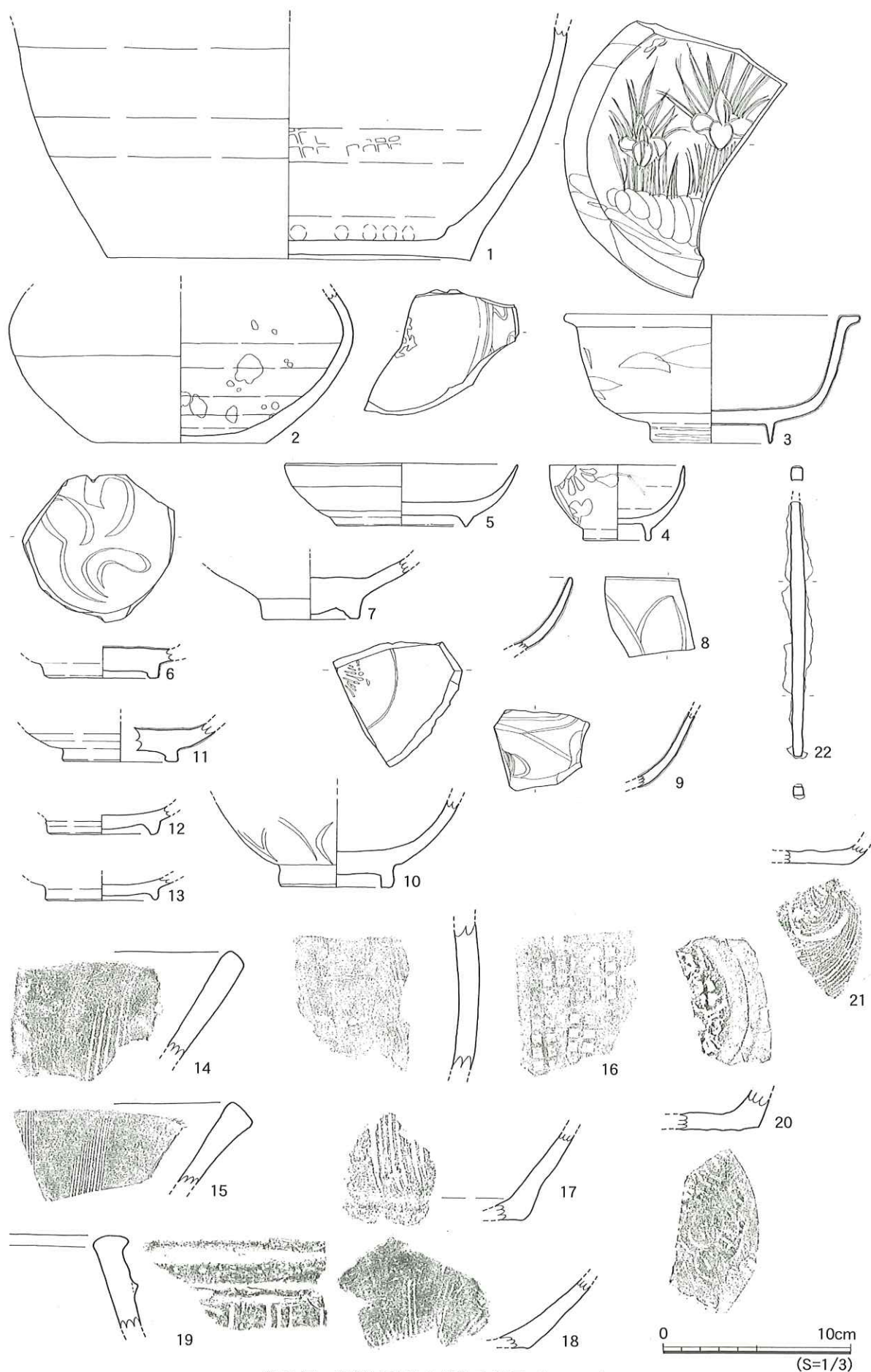


- SO2 D-D'
- 1a,b. 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
締まりなく粘性なし。
  - 1c,b. 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
あまり締まらず、あまり粘性有しない。肩部の崩落土。
  - 2a. 黒褐色土 (7.5YR3/2)  
しまり、あまり粘性有しない。砂、礫片多く含む。
  - 2b. 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
締まり、あまり粘性有しない。2aよりやや粒が細かい。
  - 2c. 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
締まり、あまり粘性有しない。砂含む。
  - 3a. 黒褐色土 (7.5YR2/2)  
締まり、あまり粘性有しない。褐色粘質土をブロック状に含む。
  - 3b. 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
締まり、あまり粘性有しない。VI層に近似する。
  - 3c. 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
締まり、粘性やや有す。VI層に近似する。
  4. 黒褐色土 (7.5YR2/2)  
締まり、粘性やや有す。暗褐色土粘質土をブロック状に含む。
  5. 褐色砂質土 (7.5YR4/4)  
締まり、粘性有しない。荒砂、礫片が固まったような感じ。VII層の2次堆積と考えられる。5bがやや締まりゆるい。
  6. 褐色砂質土 (7.5YR4/3)  
締まり、粘性有しない。5層より砂の粒が細かい。

第12図 岩崎城跡土層断面図②



第三章 岩崎城跡の調査



第13図 岩崎城跡出土遺物実測図 (1~22)

遺物 (第13図)

1～4は近代～現代の陶磁器。5は近世の染付で見込みにコンニャク印が施される。6から11は青磁。6は見込みに方彫花文が施される。7は内面見込み部分のみ施釉してある。8は蓮弁文が施される。鎬が無く簡略化されているようである。9は体部の1部である。内面に文様が施される。10は外面に蓮弁文が施される。11は内面と外面に自然釉が付着する。12、13は瓦器の底部。14～18は摺鉢。19は火鉢の口縁部。20は土師器の坏で底部は糸切りである。21は瓦質土器で底部は同心円タタキ、内面はスタンプ状の文様が施される。22は鉄製品で釘と思われる。

図版番号	出土地点	種類	器種	部位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土	焼成	実測者
1	S01	陶器	瓶	体～底	-	(19.4)	(12.5)	回転ナデ	格子目タタキ	(胎土) 暖赤褐色(5YR3/2)	(釉) 鼠褐色(7.5YR3/1)	0.5mm前後の砂粒含む	良	大倉
2	S01	陶器	壺	-	-	(9.1)	(8.0)	-	回転ナズリ	(胎土) 濃い黄褐色(10YR5/3)	(釉) オリリーブ灰(10Y5/2)	-	良	大倉
3	S01	染付	瓶	-	(16.2)	-	(6.8)	-	-	(胎土) 灰色(N8/4)	(釉) 灰色(10N6/1)	-	良	大倉
4	S01	染付	瓶	-	(8.2)	-	4.0	-	回転ナデ	(胎土) 灰白色(N7/)	(釉) オリリーブ灰(2.5G7/1)	0.1mm大の砂粒含む	良	大倉
5	S01	染付	瓶	-	(12.3)	-	3.3	-	-	(胎土) 灰白色(5Y7/1)	(釉) 灰白色(10Y7/1)	-	良	大倉
6	表採	青磁	瓶	底部	-	6.2	(1.7)	-	-	(胎土) 灰白色(5Y7/1)	(釉) オリリーブ灰(10Y6/2)	-	良	大倉
7	B区III層	青磁	瓶	底部	-	5.2	(2.1)	回転ナズリ	回転ナデ	(胎土) 灰白色(10Y7/1)	(釉) 灰オリーブ(7.5Y5/2)	-	良	末永
8	表採	青磁	瓶	口縁	-	(6.0)	(3.9)	-	-	(胎土) 灰白色(7.5Y7/1)	(釉) 灰オリーブ(7.5Y5/2)	-	良	末永
9	表採	青磁	不明	胴部	-	-	-	-	-	(胎土) 灰白色(7.5Y9/1)	(釉) オリリーブ灰(10Y5/2)	-	良	末永
10	表採	青磁	瓶	底部	-	(6.0)	(4.7)	-	-	(胎土) 灰白色(10Y7/1)	(釉) オリリーブ灰(10Y5/2)	1mm以下の砂粒まばらに含む	良	古閑
11	S02	青磁	瓶	底部	-	(6.2)	(2.1)	回転ナデ	回転ナズリ	(胎土) 灰白色(10Y7/1)	(釉) 橙(7.5YR6/6)	-	良	大倉
12	表採	瓦器	瓶	底部	-	6.0	(1.5)	-	-	(胎土) 濃い黄褐色(10YR7/3)	(釉) 橙(7.5YR6/6)	-	良	大倉
13	表採	瓦器	瓶	底部	-	5.9	(1.3)	-	-	灰黄色(2.5Y7/2)	灰黄色(2.5Y7/2)	0.1mm大の砂粒含む	良	大倉
14	表採	瓦質土器	摺鉢	口縁	-	-	(5.7)	不明	不明	灰色(N5/1)	灰色(N5/1)	0.1mm大の砂粒含む	普通	末永
15	S01	瓦質土器	摺鉢	口縁	-	-	(4.3)	ナデ	ヨコナデ	灰色(7.5YR6/1)	灰色(7.5Y6/1)	0.5mm以下の砂粒含む	良	末永
16	S02	瓦質土器	摺鉢	胴部	-	-	-	格子目タタキ	ヨコナデ	灰白色(N4/)	灰白色(N4/)	0.2mm以下の砂粒わずかに含む	良	末永
17	表土	瓦質土器	摺鉢	底部	-	-	(5.7)	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N6/1)	灰色(N6/1)	砂片、1mm前後の砂粒含む	普通	末永
18	表採	瓦質土器	摺鉢	底部	-	-	(3.8)	不明	不明	灰色(N6/1)	灰白色(N7/1)	0.2mm前後の砂粒に含む	不良	末永
19	表土	瓦質土器	火鉢	口縁	-	-	(5.0)	不明	不明	に白い橙色(7.5YR6/4)	に白い黄褐色(10YR4/3)	0.3mm以上の砂粒、ウンモのみに含む	普通	末永
20	B区IV層	瓦質土器	不明	底部	-	-	(2.0)	タタキ	スタンプ状	灰褐色(7.5YR5/2)	に白い褐色(7.5YR5/4)	1mm前後の砂粒含む	普通	末永
21	表採	土師器	坏	底部	-	-	(1.1)	底部糸切り	不定方向ナデ	橙褐色(7.5YR6/6)	橙褐色(7.5YR6/6)	ウンモわずかに含む	普通	末永
22	B区III層	鉄製品	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	末永

表3 岩崎城跡出土遺物観察表

## 第Ⅳ章 弥生時代～古代の調査

### S06 (1号住居址) - 第15図

D区において、V層上面で検出した。北側を倒木痕に切られ、S04に切られる。西側のコーナーでS09を切る。平面形は長方形を呈する住居址で、長軸約5.7m、短軸約4.8m、検出面からの深さ約45cmを測る。コの字型にベッド状遺構を持つ。検出面からベッド状遺構までは5cmほどしかなく、上半部は削平されているとみられる。東側の1辺に壁周溝を検出したが、本来は他の部分にも壁周溝があった可能性が高い。検出面からの深は5cmほどである。支柱穴は2基検出し、2本柱の住居だったと思われる。東側の柱穴から、甕の脚台部分が出土した。南側の1辺に入り口に伴うと考えられる土坑を1基検出した。住居址のほぼ中央で炉を検出した。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸約75cm、短軸約62cm、検出面からの深さ約cmを測る。覆土は黒褐色土を主体とし、焼土、炭化物を大量に含む。底部の一部レンガ状に焼けている。遺物は覆土中から鉄製品と弥生土器の破片が少量出土している。

### S20 (2号住居址) - 第15図

B区において、V層上面で検出した。東側でS28を切る。平面形は長方形を呈する住居址で、長軸約4.9m、短軸約3.6m、検出面からの深さ約40cmを測る。北西コーナー部分と、東側の1辺にベッド状遺構を検出した。東側はS28を切っていたため、検出できずに一部ベッド状遺構を床面まで掘り下げた。立ち上がりは15cmほどである。北側、西側、南側の辺で壁周溝を検出した。検出面からの深さ約5cmを測る。支柱穴は2基検出し、2本柱の住居だったと思われる。南側の一辺に、入り口に伴うと考えられる土坑を検出した。住居址のほぼ中央で炉を検出した。平面形は楕円形ぎみの長方形を呈し、長軸約85cm、短軸約60cm、検出面からの深さ約5cmを測る。覆土は黒褐色土を主体とし、焼土、炭化物を多量に含む。遺物は、弥生土器の甕、壺等が出土した。

### S09 (3号住居址) - 第16図

D区において、V層上面で検出した。西側は削平され、東側のコーナーはS06に切られる。南側でS10とS12を切る。平面形は長方形を呈する住居址で、長軸約6.4m、短軸5.2m、検出面からの深さ約30cmを測る。西側と東側にベッド状遺構を検出し、立ち上がりは15cmほどである。支柱穴は2基検出し、2本柱の住居だったと思われる。南側で入り口に伴うと思われる土坑を検出した。住居址のほぼ中央で炉を検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸約45cm、短軸40cm、検出面からの深さ約5cmを測る。覆土は黒褐色土を主体とし、焼土、炭化物を多量に含む。遺物は弥生土器片が少量出土した。

### S17 (4号住居址) - 第16図

B区において、V層上面で検出した。北側をS21、南側をS15に切られ、東側は調査区外に延びる。平面形は、住居址と思われる西側の1辺のみ検出し、確認した範囲は南北4.3m、東西3.6m、検出面からの深さ約50cmを測る。床面でS18、S29、S30、ピット1基を検出した。住居に伴う遺構がどうか不明である。遺物は弥生土器の破片が少量出土している。S18はほぼ円形の土坑で、長軸約85cm、短軸約80cm、検出面からの深さ約73cmを測る。遺物は土器細片がわずかに出土した。S29は楕円形の土坑で、長軸約105cm、短軸約70cm、検出面からの深さ約20cmを測る。S30は楕円形の土坑で長軸約80cm、短

軸約 60 cm、検出面からの深さ約 15 cmを測る。覆土は、S29、30 ともV層に近い暗褐色土である。いずれも土器細片がわずかに出土している。

S14 (5号住居址) - 第17図

A区において、V層上面で検出した。土手状遺構内で検出し、東西をS01、02に切られ南側は調査区外に延びる。住居址の北側の一辺のみ検出し、確認した範囲は南北 5.5 m、東西 5.0 m、検出面からの深さ約 50 cmを測る。ベッド状遺構を検出し、立ち上がりは約 24 cmを測る。主柱穴は2基検出した。2本柱の住居だったと思われる。住居のほぼ中央と思われる位置に炉を検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸約 90 cm、短軸約 70 cm、検出面からの深さ約 5 cmを測る。一部がレンガ状に焼けている。遺物は覆土中から多量の土器が出土し、床面直上からも破棄されたような状態で土器がまとまって出土した。

S11 (6号住居址) - 第17図

D区において、V層上面で検出した。北東部は調査区外に延び、方形又は長方形を呈する住居址とみられ、確認した範囲は南北 3.6m、東西 3.8 m、検出面からの深さ約 40 cmを測る。西側の一辺にベッド状遺構を検出し、立ち上がりは約 15 cmを測る。床面でピット1基を検出した。覆土は黒褐色土がレンズ状に堆積しており、遺物は弥生土器の破片が少量出土した。

S21 (7号住居址) - 第18図

B区において、V層上面で検出した。西側はS02に切られ、東側の大部分は後世の削平により消滅している。方形または長方形の住居址と思われ、南北約 5.0m、東西 1.8m以上、検出面からの深さ約 40 cmを測る。ベッド上遺構を検出し、コの字型かL字型になるものと思われる。立ち上りは約 15 cmを測る。壁周溝を確認した。南西のコーナー部分でピットを1基検出し、底部からほぼ完形の小型の丸底壺が出土した。

S25 (8号住居址) - 第18図

B区において、V層上面で検出した。西側はS02に切られ、大部分は後世の削平により消滅している。住居址の一部とみられ、東側の一辺のみ確認した。南北 5.5m以上、東西 2.3m以上、深さ約 35 cmを図る。ベッド状遺構と思われる段を検出し、立ち上りは約 20 cmを測る。遺物は弥生土器の破片が少量出土した。

S10 (9号住居址) - 第18図

D区において、V層上面で検出した。北側をS09に切られ、西側は削平されている。住居址の一部とみられ、南北 3.1m以上、東西 1.6m以上、検出面からの深さ約 43 cmを測る。ベッド状遺構と思われる段を検出し、立ち上りは約 20 cmを測る。床面でピット1基を検出した。遺物は弥生土器片が少量出土した。

S12 - 第18図

D区において、V層上面で検出した。北側をS09に切られ、西側はS10に切られる。南北 0.8m以上、東西 1.2m以上、検出面からの深さ約 20 cmを測る。南東のコーナーでピット1基を検出した。遺物は弥生土器片が少量出土した。

S28 - 第18図

B区において、V層上面で検出した。東側は調査区外に延び、大部分がS20に切られる。平面形は楕円形を呈するとみられ、南北約 2.4m、東西 1.6m、検出面からの深さ約 80 cmを測る。立ち上りは部分的に段があり、不整形な部分もあるため倒木痕などの可能性がある。遺物は弥生土器の小片が少量出土した。

S24 - 第18図

B区において、V層上面で検出した。東側は調査区外に延び、南側は削平されている。南北2.7m以上、東西1.1m以上、検出面からの深さ約30cmを測る。床面でピットを1基検出した。住居址の一部の可能性はある。遺物は弥生土器の小片が少量出土した。

S08 - 第18図

D区において、V層上面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸約165cm、短軸約120cm、検出面からの深さ約15cmを測る。覆土は主に暗褐色土を呈し、あまり締まらず粘性有しない。遺物は出土していない。

S13 - 第18図

D区において、V層上面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸約165cm、短軸約90cm、検出面からの深さ約30cmを測る。覆土は主にV層に近似する暗褐色土を呈し、締まりがありやや粘性有す。遺物は土器片が少量出土している。

S19 - 第18図

B区において、V層上面で検出した。平面形はほぼ円形を呈し、長軸約60cm、短軸約55cm、検出面からの深さ約45cmを測る。遺物は出土していない。

S16 - 第18図

A区において、V層上面で検出し、S14を切っている。S14を掘り下げ中に検出した。平面形はいびつな楕円形を呈し、長軸180cm以上、短軸95cm以上、検出面からの深さ約35cmを測る。覆土は黒褐色土を呈し、S14の覆土と非常に近似する。遺物は土器が多量に出土した。

S23 - 第19図

A区において、V層上面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸約87cm、短軸約70cm、検出面からの深さ約35cmを測る。遺物は出土していない。

S26 - 第19図

B区において、V層上面で検出した。平面形はほぼ円形を呈し、直径約70cm、検出面からの深さ約15cmを測る。遺物は出土していない。

S27 - 第19図

A区において、V層上面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸約60cm、短軸約50cm、検出面からの深さ約30cmを測る。遺物は出土していない。

S31 - 第19図

B区において、V層上面で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸約100cm、短軸約85cm、検出面からの深さ約30cmを測る。遺物は出土していない。

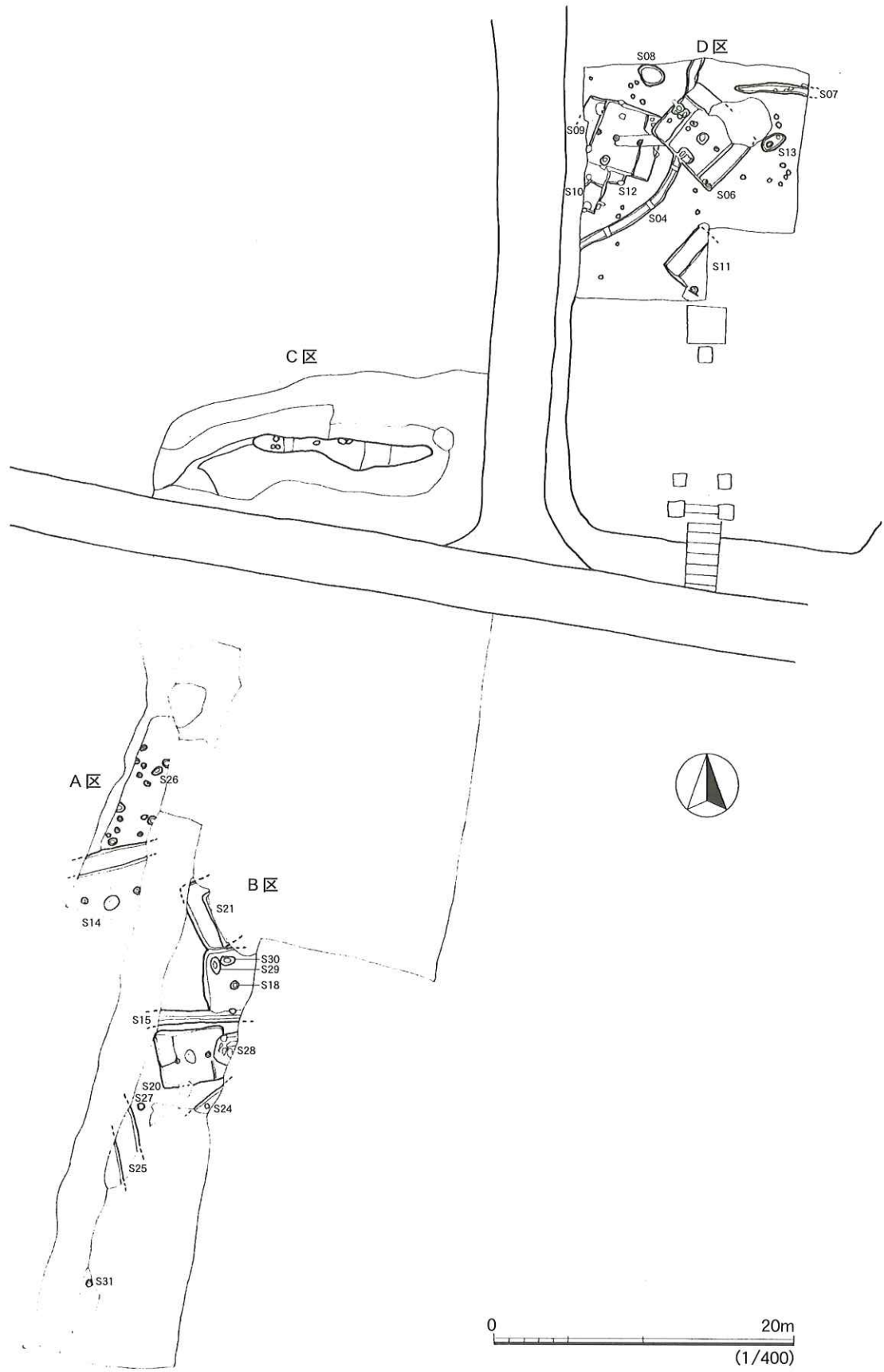
S07 - 第19図

D区において、V層上面で検出した。東側は調査区外に延び、長さ5m以上、幅約60cm、検出面からの深さ約60cmを測る。遺物は出土していない。

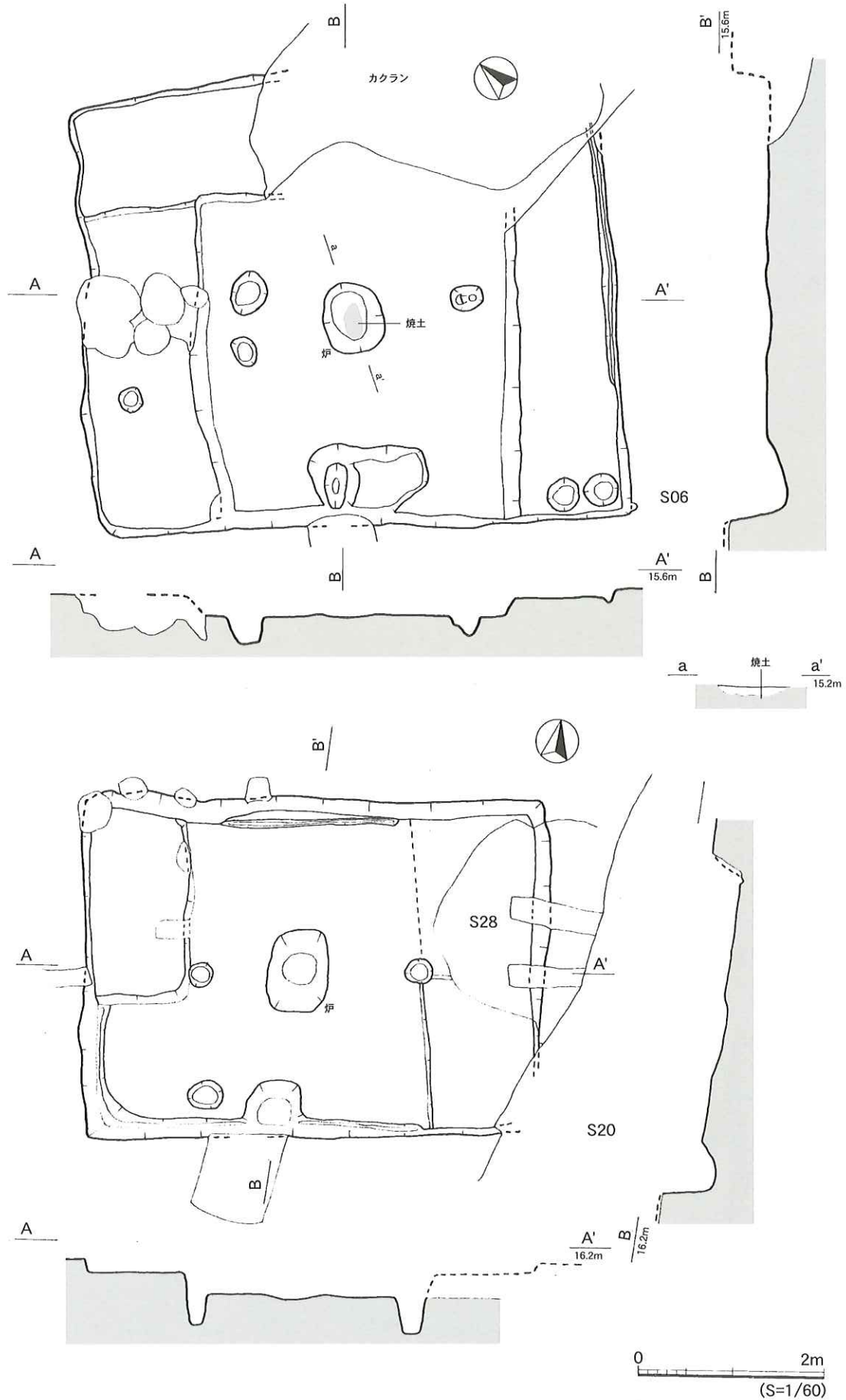
S15 - 第19図

B区において、V層上面で検出した。東側は調査区外に延び、西側はS02に切られる。長さ6.5m以上、幅約1.0m、検出面からの深さ約40cmを測る。遺物は土器片が少量出土した。

第IV章 弥生時代～古代の調査

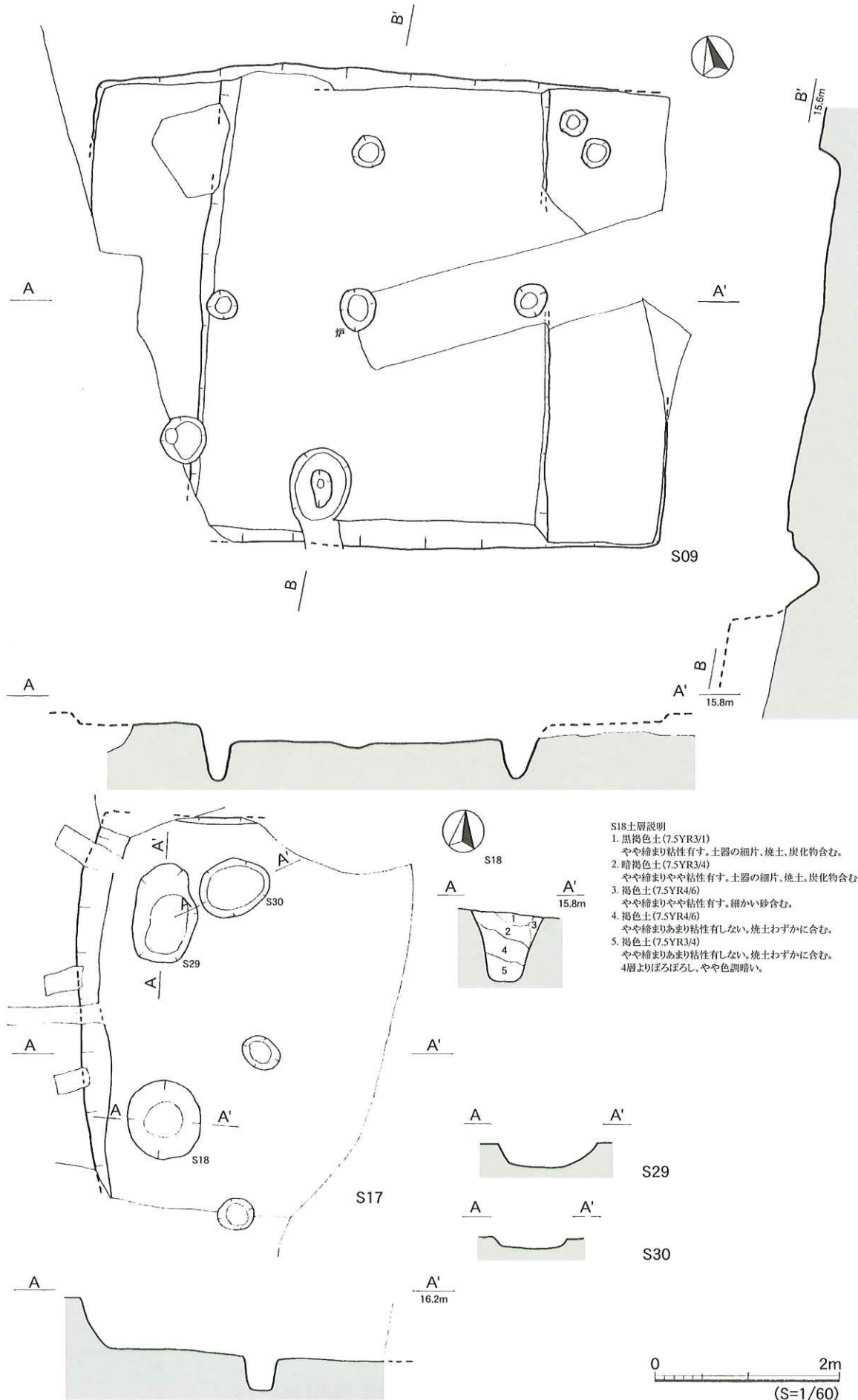


第14図 弥生時代遺構配置図



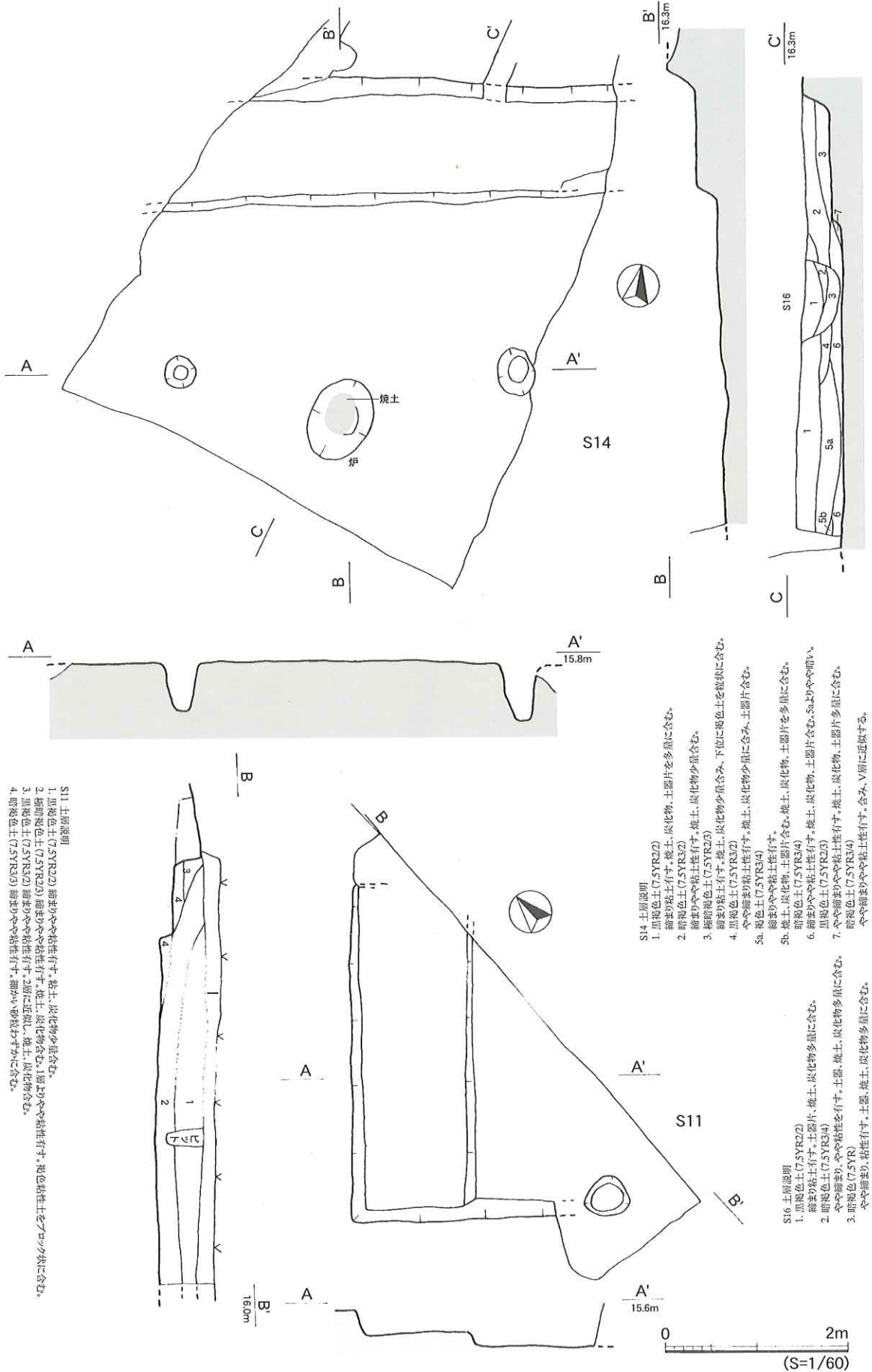
第15図 住居址実測図① (S06,S20)

第IV章 弥生時代～古代の調査



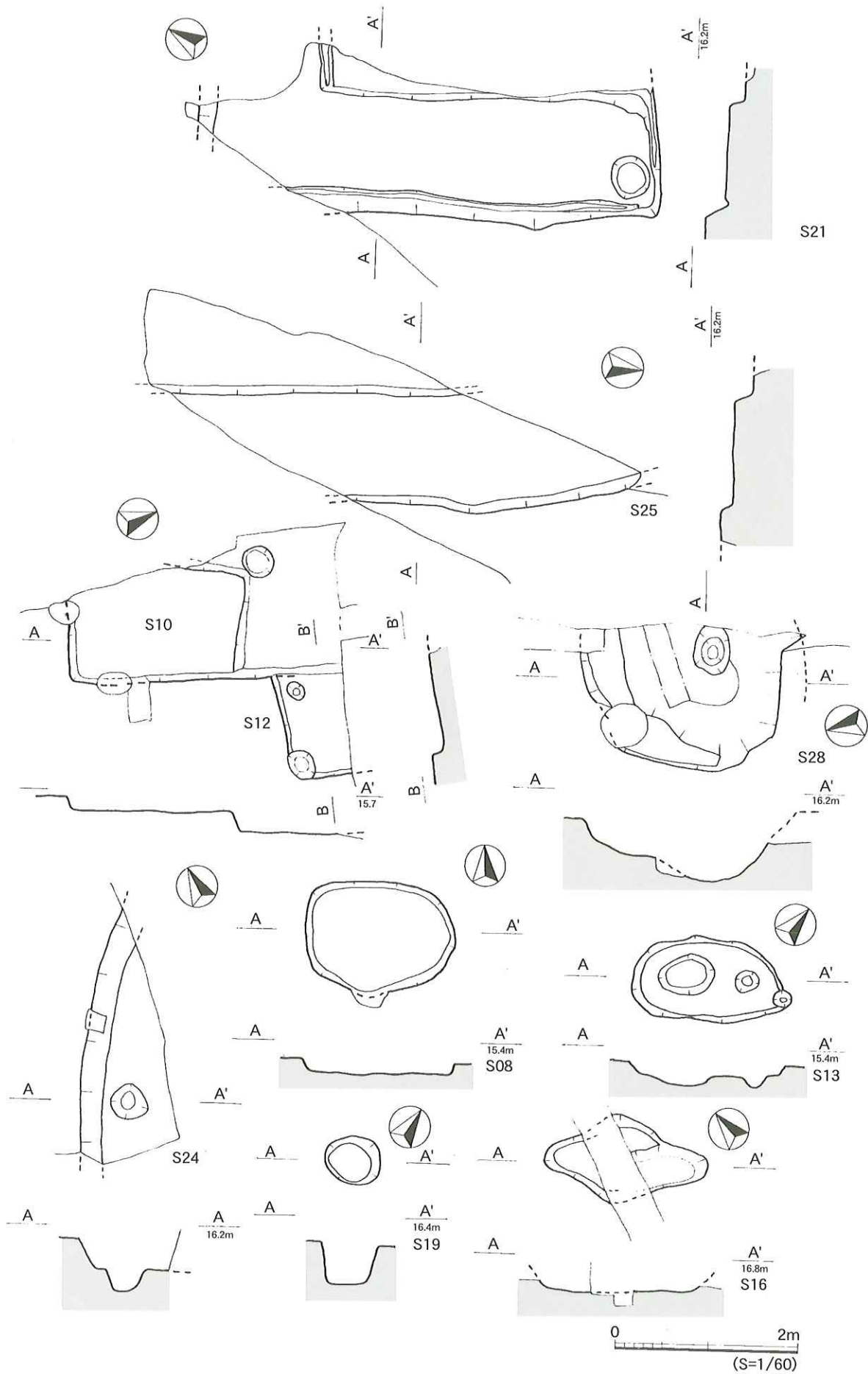
第16図 住居址実測図②(S09,S17,S18,S29,S30)





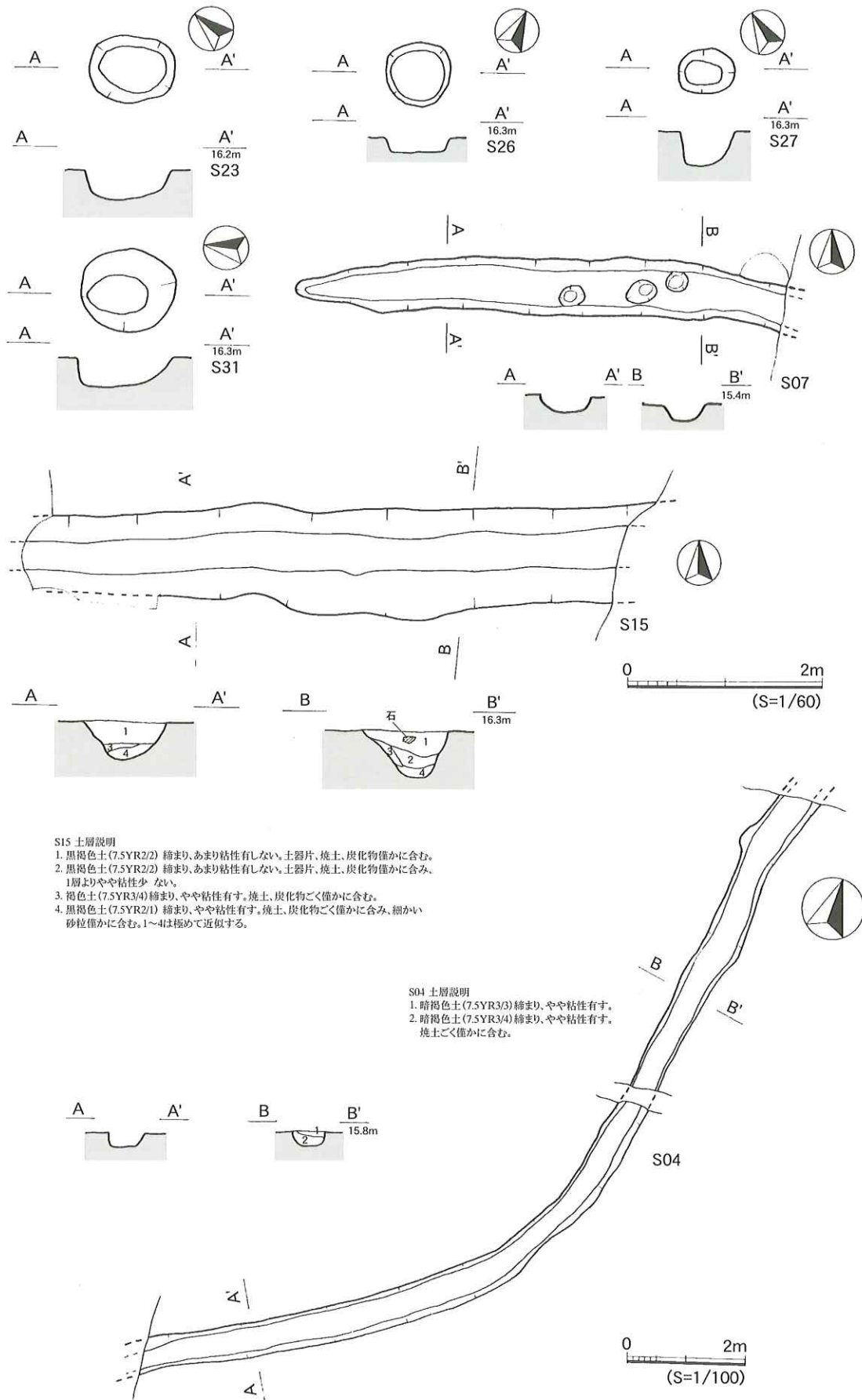
第17図 住居址実測図③(S14,S11)

第IV章 弥生時代～古代の調査



第18図 住居址、土坑実測図 (S21,S25,S10,S12,S28,S24,S08,S13,S19,S16)

第IV章 弥生時代～古代の調査



第19図 土坑、溝状遺構実測図(S23,S29,S27,S31,S07,S04)

遺物

S06 (1号住居址) - 第20図

23と24は甕で24は脚台の内部に砂粒が付着している。23は「く」の字型の口縁部でやや外反しながら立ち上がる。外面の調整はハケ目が僅かに観察される。25は高坏の坏部の屈折部分とみられる。26は鉄鏃で長さ8.7cm、幅2.3cmを測る。

S20 (2号住居址) - 第20・21図

27～31は甕。28は「く」の字型の口縁部で胴部が張らず、胴部最大径が口径より小さいため、鉢のような形態をしている。外面の調整はタタキの後ナデ消してある。それ以外の甕は外面の調整はハケ目である。脚台部の形態は29のみ裾部が僅かに外側に広がって伸びるが、30、31は直線的に広がり、端部はやや角張る。32から38は甕の脚台。35のみかなり大型である。裾部の開き方がそのまま直線的に広がるもの(32、35、34)と、やや外側に広がって伸びるもの(33、36、37、38)がある。外面の調整は縦方向のハケ目で内面は横方向のハケ目調整されるのが多い。36は内面に砂粒は付着している。39は壺で頸部から肩部にかけて外面に9条のカキ目が施される。口縁部内面には、3本と4本の縦方向の条線が3ヶ所ずつ施される。口縁部から頸部にかけては斜め方向と縦方向のハケ目調整される。40は壺の底部で平底を呈し、内面はハケ目調整される。41は壺の頸部から肩部にかけての破片で、外面にそれぞれ9本ずつのカキ目と波状文が施される。42、43は高坏の坏部。いずれも磨耗により調整痕は不明。44は高坏の脚部。裾部4ヶ所に1個ずつ穿孔される。外面の調整は磨耗により不明で内面はハケ目調整される。45はほぼ完形の鉢で、丸底を呈し口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、僅かに内湾する。外面はナデ調整され、内面は斜め方向のハケ目調整される。46は鉢で脚台が付く可能性がある。47は器台。外面の調整は斜め方向のタタキで、くびれ部より上部はハケ目調整される。内面はくびれ部より上のみハケ目調整される。48は支脚で、上部に1ヶ所穿孔される。内面は調整されず、成形時の粘土のしわがそのままである。49はジョッキ型土器。把手部分が取付け部分から欠損している。器壁が薄く、調整痕は磨耗して不明だが、丁寧な調整をされていたと思われる。

S09 (3号住居址) - 第21・22図

50は甕。磨耗により調整痕は不明である。51～53は甕の脚台部。51は小型で低い脚台のため、鉢などの脚台かもしれない。

S17 (4号住居址) - 第22図

54は高坏の柱部。内面は工具による調整痕がある。

S18 - 第22図

55は甕の脚台部。

S14 (5号住居址) - 第22・23・24・25・26図

56から61、63から83、89は甕。56はほぼ完形の甕でやや整形が悪くいびつである。内外面ともハケ目調整される。57は口縁部に稜線がある。外面の調整はタタキ後ハケ目調整される。58は甕で底部を欠く。内外面ともハケ目調整される。59、61、64は外面の調整はタタキ後ナデ調整される。84から88は壺。62は内外面ともハケ目調整される。90は胴部から底部にかけての部分で底部は平底を呈す。91は壺の胴部から底部にかけての部分で底部は丸底を呈す。全体的に成形が悪く、器面の調整も十分ではない。92から96は高坏。92は脚部に3ヶ所穿孔される。92と93の支柱部分の内面は工具による調

整痕が残る。96には坏部の内面に円形の窪みがあり、指頭又は工具による調整痕がある。97は鉢。「く」の字型に屈折する口縁部で、底部は丸底を呈す。器面の調整は、ほとんど磨耗し判断がつかないが、内面に僅かにハケ目調整が残る。98は鉢。口縁部はやや内湾しながら立ち上がる。底部は丸底を呈する。器面の調整は内外面ともハケ目調整される。99は鉢。口縁部はやや内傾して立ち上がる。底部を欠損するが丸底だったと思われる。器面の調整は磨耗により不明。100、101は鉢で、丸底を呈し器面の調整はハケ目調整が僅かに残る。80は鉢の脚台とみられる。103、104は器台。内面はハケ目調整される。105は器種不明だが、複合口縁壺の頸部か。

S21 (7号住居址) - 第26図

106は小型の壺。器面の調整はハケ目調整される。外面に1ヶ所黒斑がある。

S25 (8号住居址) - 第26図

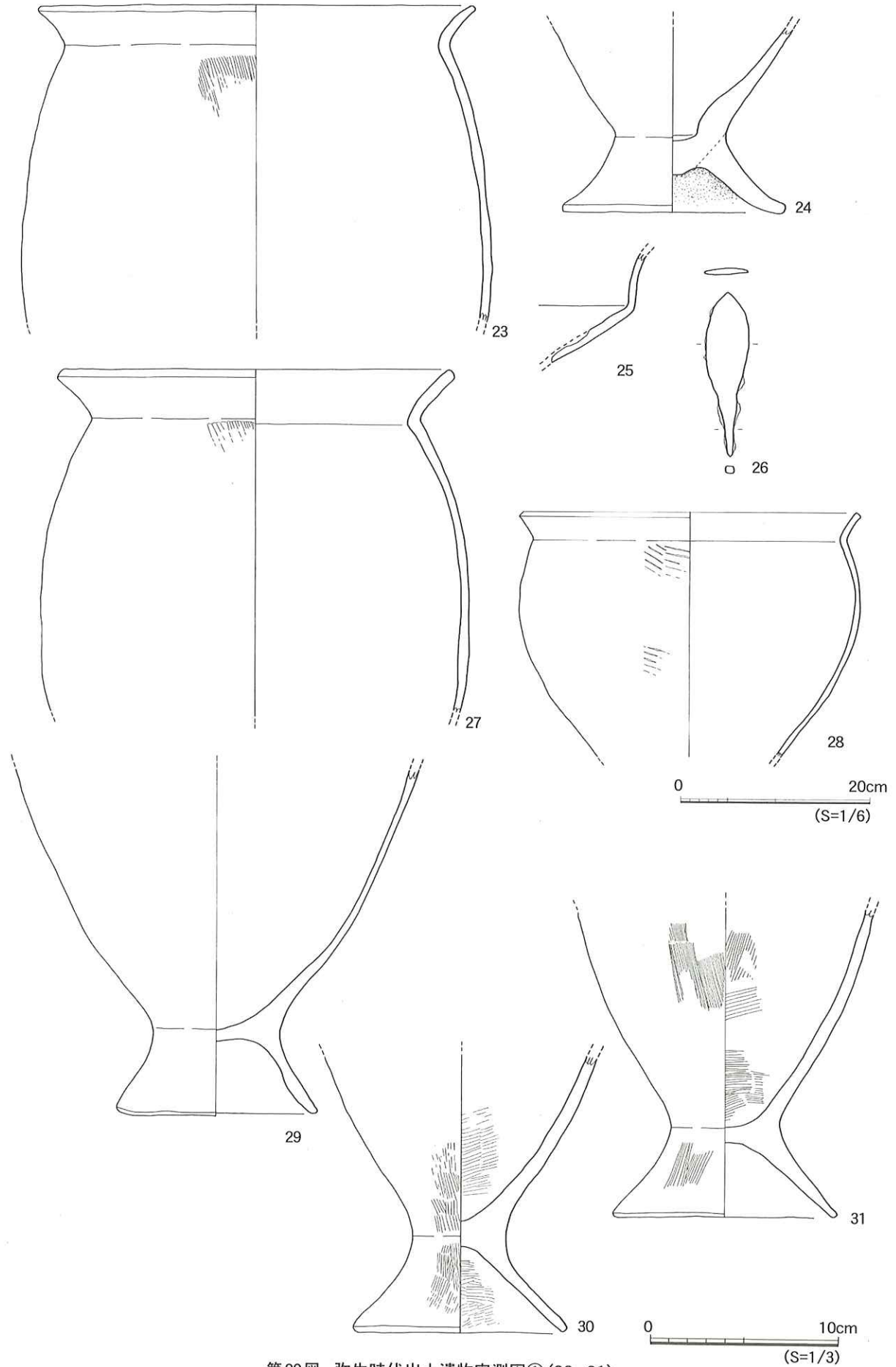
107は甕の口縁部の一部。108は高坏の口縁部の一部。坏部に段がある、S14などとほぼ同じ形態の高坏と思われる。109は甕か鉢の脚台部。一ヶ所穿孔してあるが、破片のため全体は不明。110は脚台付きの鉢と思われる。器面の調整は全体にナデ調整される。

S16 - 第26図

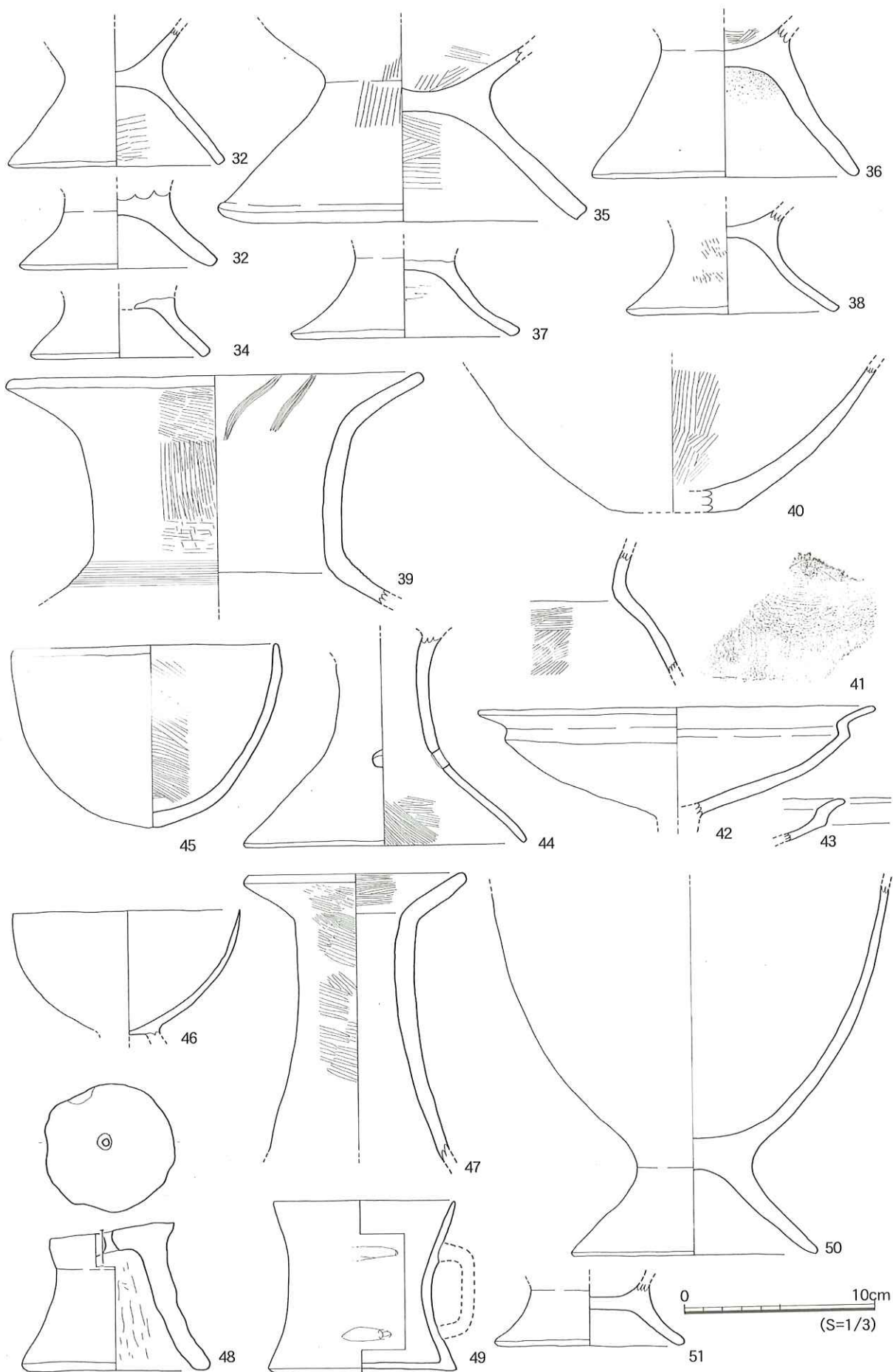
111、112は鉢。両方とも「く」の字型に屈折する口縁部であり、111は胴部が膨らみ112はあまり胴部の張りが無い。113は複合口縁壺の頸部の可能性が考えられる。114は鉢の脚台とみられ、裾部に2個1組の穿孔が1対施される。

遺構に伴わない遺物 - 第27図

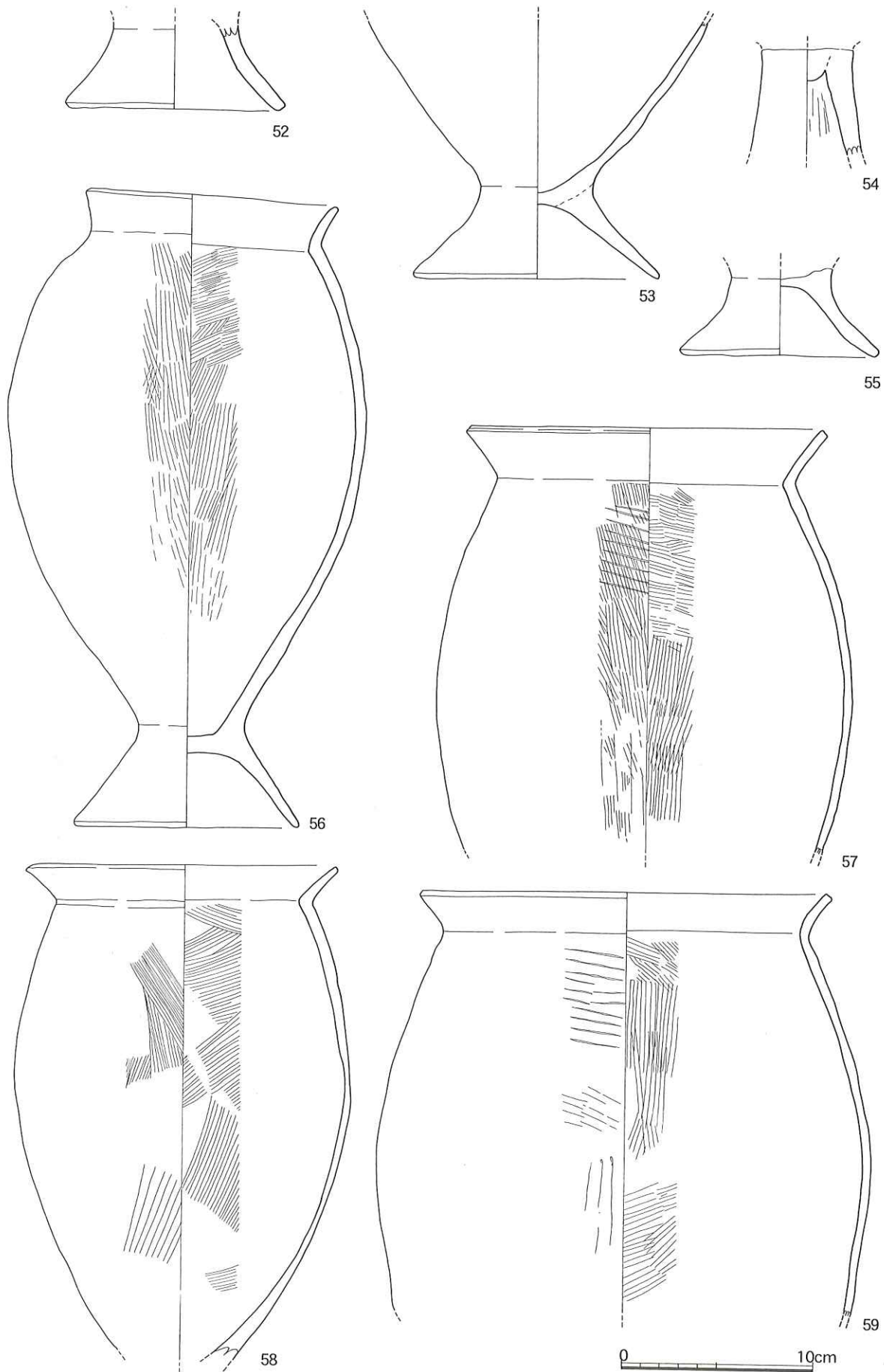
115から118は甕棺の底部である。118はS14から検出されたものであるが、後世の入り込みで遺構に伴わない遺物と判断した。その他は調査区内での表採である。115、116は平底を呈し底部中央がやや上げ底ぎみになる。117、118はいわゆる黒髪式の甕棺の底部と思われる。119から121は弥生時代後期の甕の脚台部で遺物包含層(IV層)からの出土である。122から124は須恵器の坏。いずれも高台端部が外側に張り出すようにシャープに整形されている。122は遺物包含層のIII層からの出土で、123はB区、124はD区の表土からの出土である。125から132は須恵器の小片である。主に外面は格子状タキ、内面は同心円タキが施される。



第20図 弥生時代出土遺物実測図①(23~31)



第21図 弥生時代出土遺物実測図②(32~51)



第22図 弥生時代出土遺物実測図③(52~59)

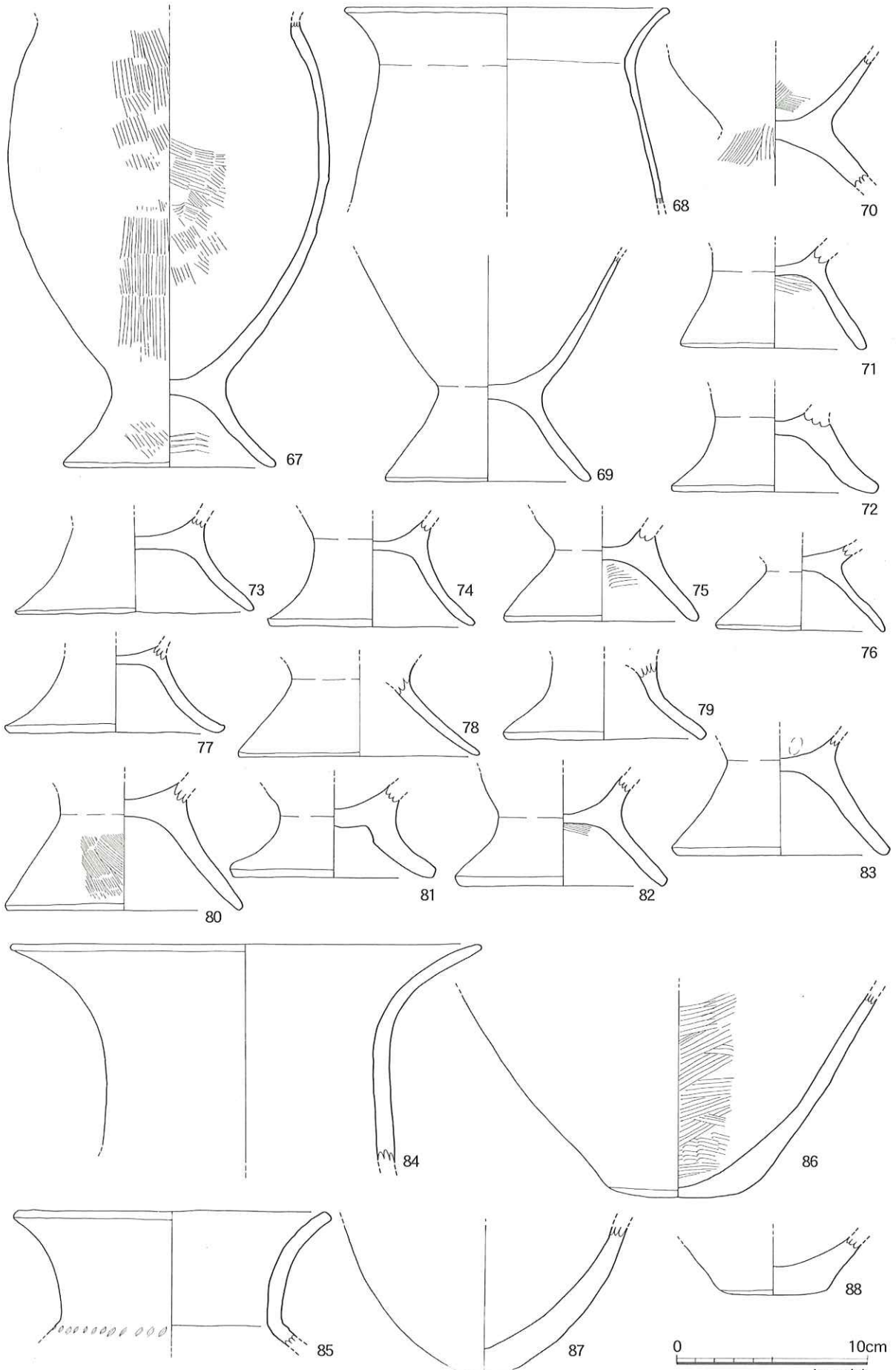
(S=1/3)



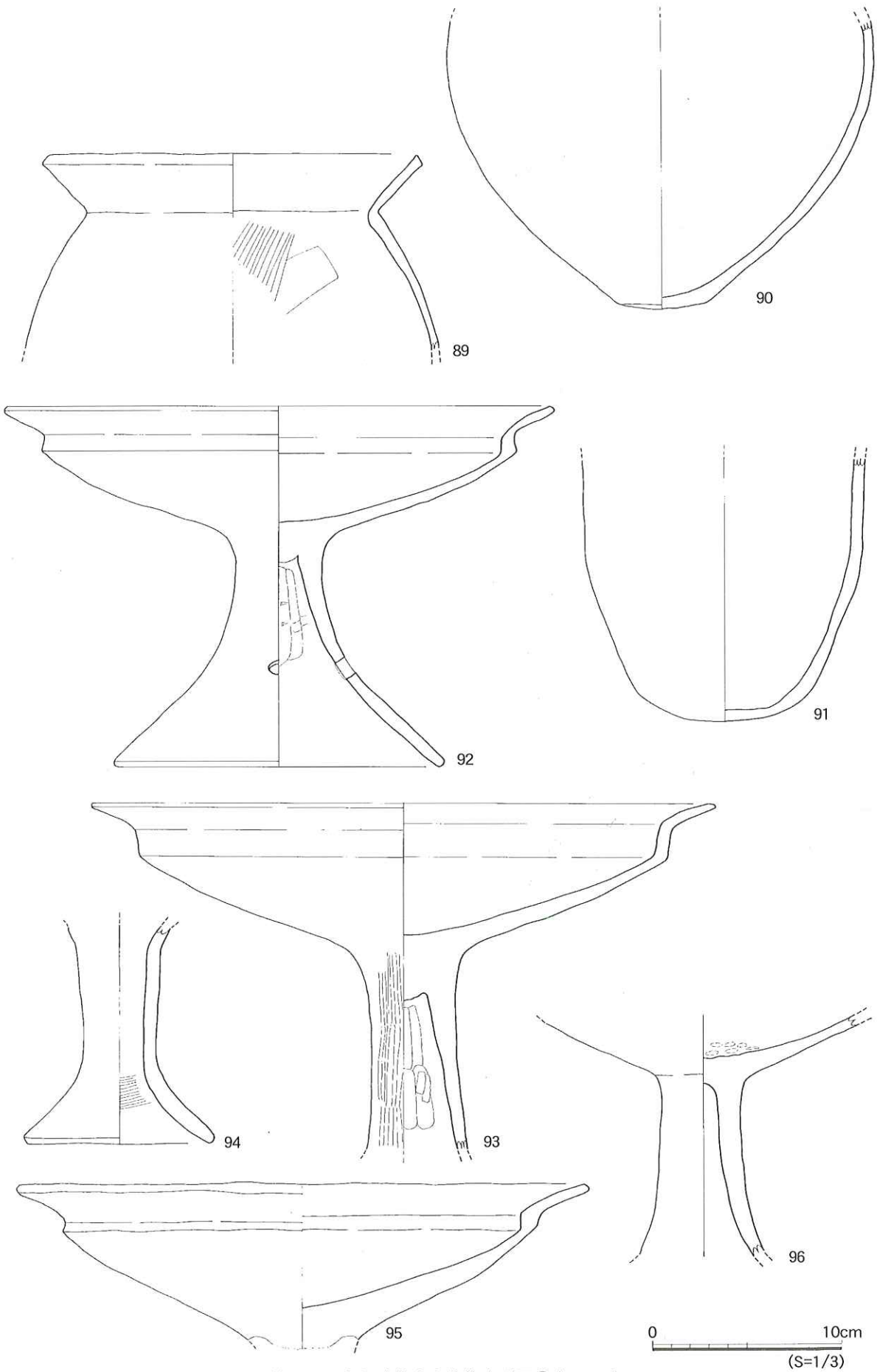


第23図 弥生時代出土遺物実測図④(60~66)

第IV章 弥生時代～古代の調査

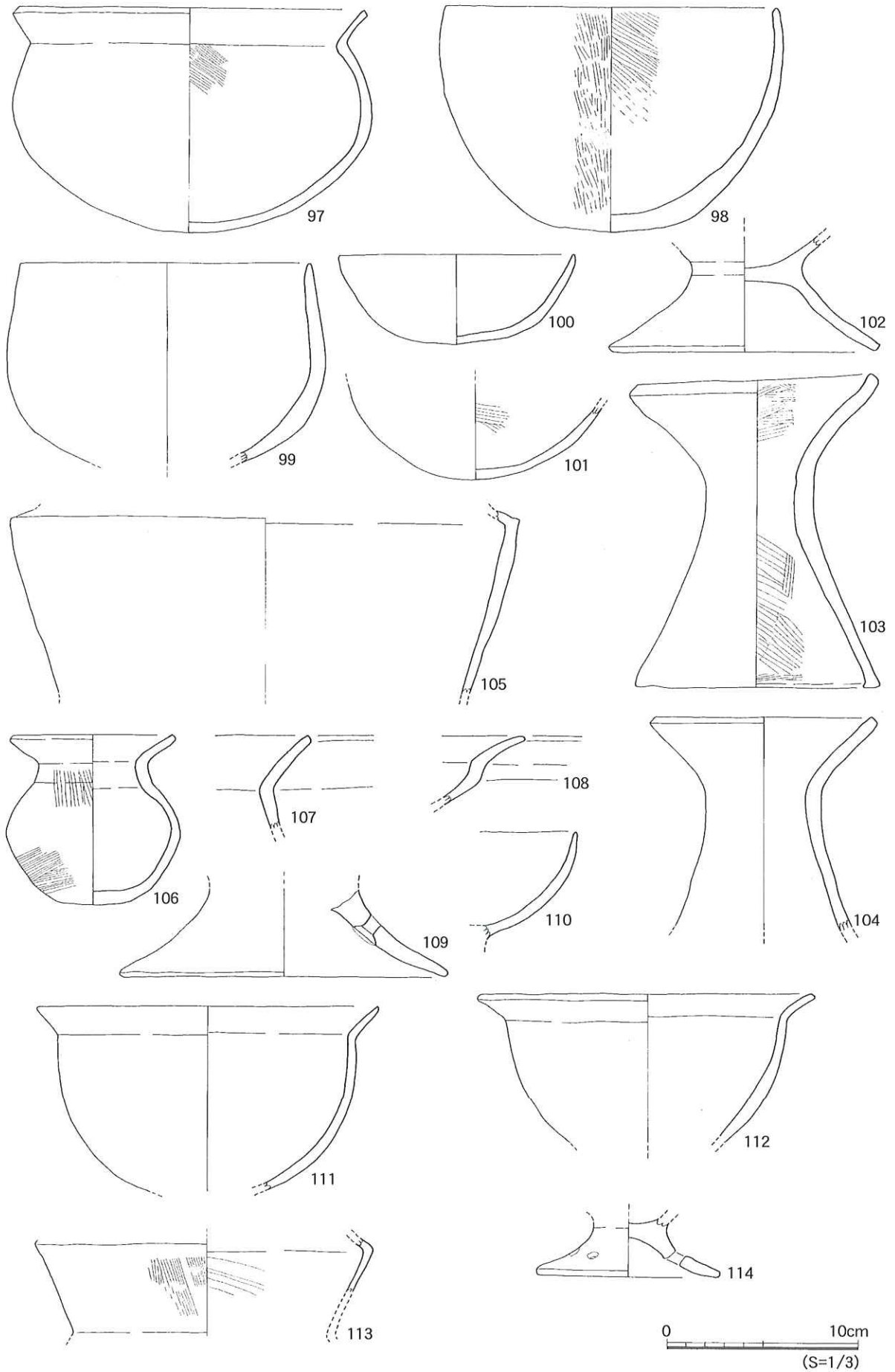


第24図 弥生時代出土遺物実測図⑤ (67~88)



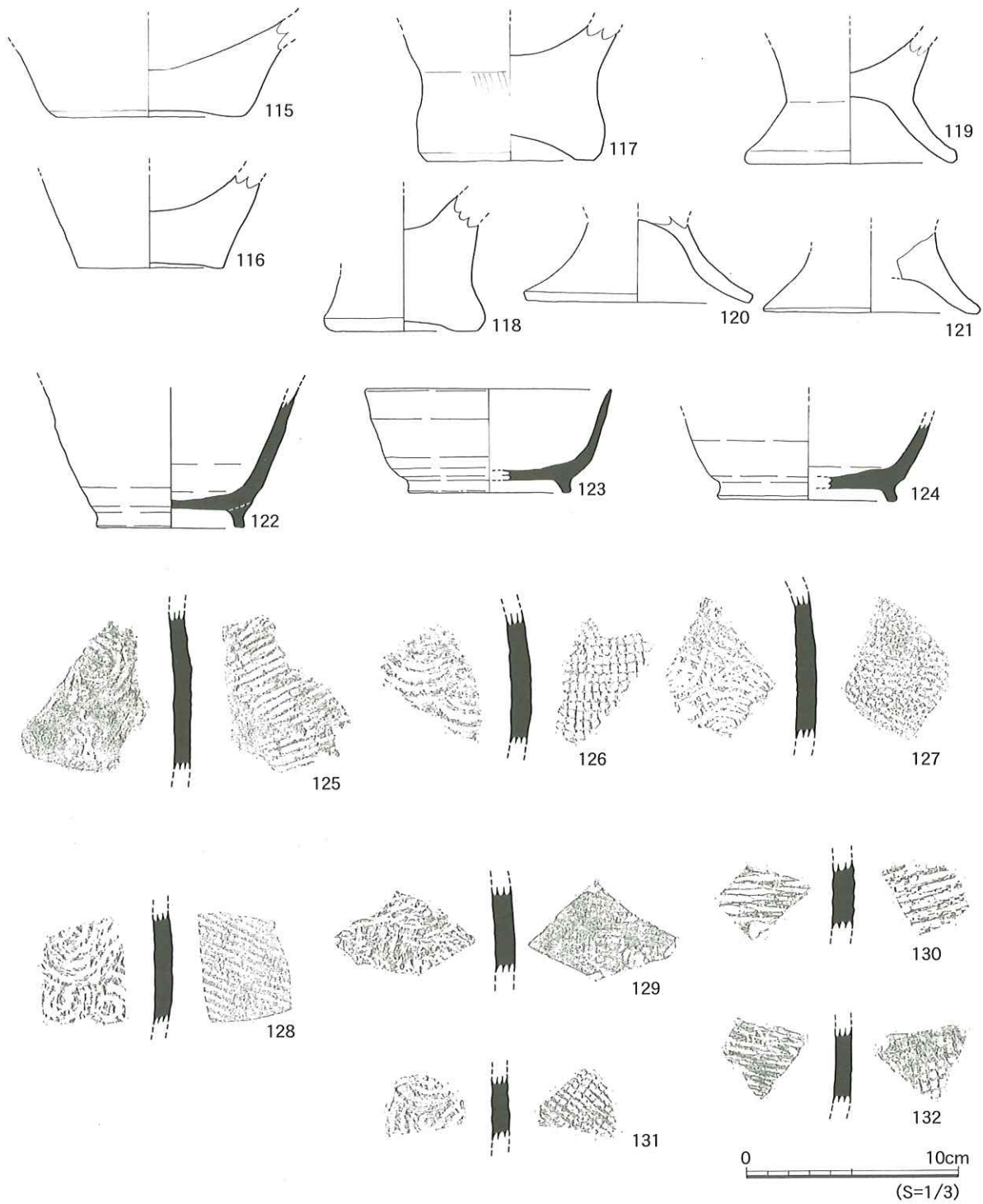
第25図 弥生時代出土遺物実測図⑥(89~96)

第IV章 弥生時代～古代の調査



第26図 弥生時代出土遺物実測図⑦(97~114)

第IV章 弥生時代～古代の調査



第27図 遺構外出土遺物実測図(115~132)



第IV章 弥生時代～古代の調査

図版番号	出土地点	種類	器種	部位	口径	底径	器高	調整(外)	調整(内)	色調(外)	色調(内)	胎土		実測者
78	S14	弥生土器	甕	底部	-	12.1	(4.8)	不明	不明	にぶい橙色(7.5YR6/4)	赤褐色(10YR6/4)	石英・砂粒・雲母含む	普通	末永
79	S14	弥生土器	甕	底部	-	(10.6)	(4.1)	不明	不明	にぶい赤褐色(5YR4/4)	暗赤褐色(5YR3/4)	1mm以下の砂粒少量含む	普通	末永
80	S14	弥生土器	甕	底部	-	(12.2)	(6.3)	不明	不明	橙色(7.5YR6/6)	明黄褐色(10YR6/6)	0.5mm～1mm前後の砂粒含む	普通	末永
81	S14	弥生土器	甕	底部	-	10.8	(4.9)	不明	不明	橙色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	0.1mm～1.0mm大の石英・雲母等砂粒含む	良	大倉
82	S14	弥生土器	甕	底部	-	11.1	(5.9)	不明	不明	明赤褐色(5YR5/6)	明赤褐色(5YR5/6)	0.1mm～1.0mm大の石英・雲母等砂粒含む	良	大倉
83	S14	弥生土器	甕	底部	-	11.4	(6.3)	不明	不明	褐色(7.5YR6/6)	褐色(5YR7/6)	0.1mm～1.0mm大の石英・雲母等砂粒含む	良	大倉
84	S14	弥生土器	壺	口～頸部	(24.6)	-	(11.8)	ナデ	不明	明黄褐色(10YR7/6)	褐色(7.5YR7/6)	1mm前後の砂粒含む	良	末永
85	S14	弥生土器	壺	口～頸部	16.6	-	(6.5)	ヨコナデ	ナデ	明黄褐色(10YR6/6)	明黄褐色(10YR6/6)	1mm以下の砂粒含む	良	末永
86	S14	弥生土器	壺	底部	-	7.0	(10.8)	ナデ	ハケ目	暗褐色(5YR3/4)	にぶい黄褐色(10YR4/3)	1mm前後の砂粒・雲母含む	良	末永
87	S14	弥生土器	壺	底部	-	-	(7.7)	不明	不明	褐色(10YR3/4)	黒褐色(10YR2/2)	1mm～2mmの砂粒大量に含む	普通	末永
88	S14	弥生土器	壺	底部	-	5.7	(3.1)	不明	不明	黄褐色(10YR5/6)	明黄褐色(10YR7/6)	1mm前後の砂粒含む	良	末永
89	S14	弥生土器	甕	口～胴部	(20.0)	-	(10.3)	ヨコナデ	ハケ目	にぶい黄褐色(10YR7/2)	浅黄褐色(10YR8/3)	0.1mm大の雲母・1～2mm大の砂粒含む	良	大倉
90	S14	弥生土器	壺	胴～底部	-	4.8	(15.2)	ナデ	ナデ	褐色(10YR4/4)	暗褐色(2.5YR3/3)	0.5mm以下の砂粒わずかに含む	普通	末永
91	S14	弥生土器	壺	胴～底部	-	-	(13.8)	不明	不明	明赤褐色(5YR2/4)	極暗赤褐色(5YR2/4)	0.5mm～3mm程の砂粒・小石多く含む	不良	末永
92	S14	弥生土器	高坏	-	(28.8)	(17.2)	19.0	不明	不明	にぶい黄褐色(10YR5/4)	褐色(7.5YR4/6)	1mm前後の砂粒含む	良	末永
93	S14	弥生土器	高坏	-	(32.8)	-	(18.2)	ナデ、ハケ目	ナデ	褐色(10YR4/4)	にぶい褐色(7.5YR5/4)	1mm程の石英・雲母ごく少量含む	良	末永
94	S14	弥生土器	高坏	脚部	-	(10.2)	(11.3)	不明	ハケ目	明褐色(7.5YR5/6)	明褐色(7.5YR5/6)	0.1mm～1.0mm大の石英・雲母等砂粒含む	良	大倉
95	S14	弥生土器	高坏	坏部	30.0	-	(8.7)	ナデ	ナデ	にぶい褐色(7.5YR6/4)	にぶい褐色(7.5YR6/4)	0.5mm以下の砂粒・雲母少量含む	良	末永
96	S14	弥生土器	高坏	-	-	-	(7.3)	ナデ	ナデ	明黄褐色(10YR7/6)	褐色(7.5YR7/6)	雲母・0.1mm～3.0mm大の砂粒含む	良	大倉
97	S14	弥生土器	鉢	準完形	18.5	-	11.7	不明	ハケ目	明黄褐色(10YR6/8)	黄褐色(10YR5/8)	0.1mm～5.0mm大の石英・雲母等含む	良	大倉
98	S14	弥生土器	鉢	-	(17.2)	-	11.7	ハケ目、ナデ	ハケ目、ナデ	にぶい黄褐色(10YR5/4)	褐色(10YR4/4)	1mm前後の砂粒・雲母含む	良	末永
99	S14	弥生土器	鉢	-	(15.0)	-	(10.3)	ナデ	ナデ	褐色(10YR3/3)	黒褐色(2.5YR4/4)	1mm以下の砂粒含む	良	末永
100	S14	弥生土器	鉢	-	12.4	-	5.7	-	-	暗赤褐色(5YR3/2)	暗赤褐色(5YR3/2)	1mm以下の5.3mmまでの砂粒多量に含む	良	末永
101	S14	弥生土器	鉢	底部	-	-	(5.0)	不明	ハケ目	褐色(7.5YR7/6)	褐色(7.5YR7/6)	0.1mm大の雲母・石英他砂粒含む	良	大倉
102	S14	弥生土器	鉢	脚部	-	14.2	(6.0)	不明	不明	明褐色(7.5YR5/6)	明褐色(7.5YR5/6)	0.1mm～0.2mm大の石英・雲母含む	良	大倉
103	S14	弥生土器	器台	完形	13.0	12.8	16.4	ナデ	ハケ目、ナデ	暗赤褐色(5YR3/4)	暗赤褐色(5YR3/4)	1mm以下の白色砂粒・雲母含む	普通	末永
104	S14	弥生土器	器台	-	(11.8)	(11.8)	(11.1)	不明	不明	褐色(7.5YR4/6)	赤褐色(5YR4/8)	1mm前後の砂粒・雲母含む	良	末永
105	S14	弥生土器	壺	口縁	-	-	(9.5)	不明	不明	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	雲母・0.1mm～1mm大の砂粒含む	良	大倉
106	S21	弥生土器	壺	準完形	8.3	-	8.8	ハケ目、ナデ	不明	明褐色(7.5YR5/6)	明褐色(7.5YR5/6)	0.1mm～1mm大の砂粒・石英・雲母含む	良	大倉
107	S25	弥生土器	甕	口縁	-	-	(4.9)	不明	不明	明黄褐色(10YR6/6)	にぶい黄褐色(10YR6/6)	0.3mm以下の砂粒含む	普通	末永
108	S25	弥生土器	高坏	口縁	(22.6)	-	(3.6)	不明	不明	明赤褐色(2.5YR5/6)	赤褐色(2.5YR4/6)	1mm位の砂粒・雲母含む	普通	末永
109	S25	弥生土器	鉢	底部	-	(17.2)	(4.6)	不明	不明	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	1mm前後の砂粒含む	良	末永
110	S25	弥生土器	鉢	-	-	-	(5.6)	ナデ	ナデ	赤褐色(5YR4/6)	赤褐色(2.5YR4/6)	1mm以下の砂粒・雲母含む	普通	末永
111	S16	弥生土器	鉢	-	(17.8)	-	(9.7)	不明	不明	赤褐色(5YR4/6)	明赤褐色(5YR5/6)	雲母・1mm大の石英他白色の砂粒含む	良	大倉
112	S16	弥生土器	鉢	-	17.6	-	(7.8)	不明	不明	暗褐色(7.5YR3/4)	褐色(7.5YR4/6)	1mm以下の砂粒含む	普通	末永
113	S16	弥生土器	壺	口縁	-	-	(5.1)	ハケ目	ハケ目、ナデ	にぶい褐色(5YR7/4)	灰黄褐色(10YR5/2)	0.1～1.0mm大の石英・雲母他砂粒含む	良	大倉
114	S24	弥生土器	鉢	脚部	-	9.6	(3.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色(7.5YR6/6)	褐色(7.5YR6/6)	0.1mm～1.0mm大の石英・雲母等含む	良	大倉
115	表土	弥生土器	甕棺	底部	-	9.1	(4.7)	不明	不明	浅黄褐色(10YR8/4)	浅黄褐色(10YR8/4)	0.1mm～3mm大の石英・雲母・砂粒含む	良	大倉
116	表土	弥生土器	甕棺	底部	-	6.9	(4.4)	不明	不明	浅黄褐色(10YR8/4)	浅黄褐色(10YR8/4)	0.1mm大の砂粒・石英・雲母含む	良	大倉
117	S14	弥生土器	甕棺	底部	-	7.6	(6.4)	不明	不明	にぶい褐色(5YR7/4)	浅黄褐色(10YR8/4)	0.1mm～1.0mm大の石英・雲母等砂粒含む	普通	大倉
118	S14	弥生土器	甕棺	底部	-	8.0	(6.5)	ハケ目	不明	浅黄褐色(10YR8/4)	浅黄褐色(10YR8/4)	0.1mm～0.2mm大の砂粒・石英・雲母含む	良	大倉
119	表土	弥生土器	甕	底部	-	10.2	(5.8)	不明	不明	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色(10YR7/3)	0.1mm～4mm大の石英・砂粒・雲母含む	良	大倉
120	B区IV層	弥生土器	甕	底部	-	10.5	(3.8)	不明	不明	明赤褐色(2.5YR5/6)	明赤褐色(2.5YR5/6)	0.1mm大の雲母・石英他砂粒含む	良	大倉
121	表探	弥生土器	甕	底部	-	10.2	(4.8)	不明	不明	褐色(5YR6/6)	褐色(5YR6/6)	0.1mm～1.0mm大の石英・雲母等砂粒含む	良	大倉
122	A区III層	須恵器	坏	-	-	(6.8)	(6.6)	回転ナデ	回転ナデ	灰色(7.5YR6/1)	灰色(7.5YR6/1)	0.1mm～5mm大の砂粒含む	良	大倉
123	D区表土	須恵器	坏	-	(11.6)	(7.6)	4.9	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色(2.5Y7/2)	黄灰色(2.5Y7/2)	0.1mm～2mm大の砂粒・石英・雲母含む	良	大倉
124	D区表土	須恵器	坏	-	-	(8.4)	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄褐色(10YR6/3)	黄灰色(2.5Y7/2)	0.1mm大の砂粒含む	良	大倉
125	B区III層	須恵器	-	-	-	-	-	平行タタキ	同じタタキ	暗オリーブ灰(2.5GY4/1)	オリーブ灰(5GY5/1)	極細砂粒子わずかに含む	良	末永
126	B区III層	須恵器	-	-	-	-	-	格子状タタキ	同じタタキ	オリーブ黒(10Y3/1)	灰色(7.5Y5/1)	極細砂粒子わずかに含む	良	末永
127	D区表土	須恵器	-	-	-	-	-	格子状タタキ	同じタタキ	黒褐色(2.5Y)	オリーブ褐色(2.5Y4/4)	極細砂粒子わずかに含む	良	末永
128	A区IV層	須恵器	-	-	-	-	-	平行タタキ	同じタタキ	暗黄灰色(2.5Y4/2)	灰色(7.5Y4/1)	極細砂粒子・雲母わずかに含む	良	末永
129	D区表土	須恵器	-	-	-	-	-	格子状タタキ	同じタタキ	灰色(N51)	暗灰色(N31)	0.5mm程の白色砂粒少量含む	良	末永
130	B区III層	須恵器	-	-	-	-	-	平行タタキ	平行タタキ	黒褐色(7.5YR2/2)	暗褐色(7.5YR3/4)	0.5mmの白色砂粒少量含む	良	末永
131	A区表土	須恵器	-	-	-	-	-	格子状タタキ	同じタタキ	オリーブ灰(10Y6/2)	灰色(10Y6/1)	極細砂粒子・雲母わずかに含む	良	末永
132	D区表土	須恵器	-	-	-	-	-	格子状タタキ	平行タタキ	黄褐色(2.5Y4/1)	暗褐色(2.5Y4/1)	極細砂粒子・雲母わずかに含む	良	末永

第4表 弥生時代～古代遺物観察表

城館のそれぞれ個別の調査が進み、検討が加えられてゆけば、荘園成立から衰退までの状況などを明らかにするための資料として活用できるため、さらなる調査が必要と思われる。

## 2. 弥生時代について

今回の調査では、主な遺構として弥生時代後期の住居址を9軒分検出した。遺構は、すべてV層上面で検出しており、V層が残存している範囲ではかなり遺構密度が高く、調査範囲及び周辺においてもさらに住居群が広がっていたと考えられる。現在玉名市の市街地が形成されている低い丘陵地全体で弥生時代の住居址が部分的ながら確認されているが、宅地化などで全体が把握困難な状況になってきている。そのため今回の調査で確認した住居群が、今後弥生時代の集落の様子などを推察できる資料になると考える。

S14からは、多量の弥生土器を検出した。特に住居の床面からはまとめて廃棄されたと考えられる土器が出土し、一括性が非常に高い資料と判断している。出土した土器は、器種も揃っており甕、壺、高坏、鉢、器台などがある。S20からは住居址の覆土中から土器が出土した。住居の廃絶後に埋まった段階での資料ではあるが、ある程度まとまった器種があり、住居との時期差はあまりないと考えている。第28図はS14とS20から出土した土器をまとめた表である。S14とS20出土の土器については、それぞれの器種の形態は概ね同じで、現段階では明瞭な時期差を示すような形態の違いはみられないことから、ほぼ同じ時期と判断している。したがってS14出土土器にS20出土土器を加えたものが、遺跡内での土器のセット関係を示す土器群と思われる。以下、器種ごとに概観してみる。

甕は、熊本県内に広く出土する口縁部が「く」の字型で、底部に脚台が付く甕がほとんどを占める。出土の割合が最も多い。胴部の最大径は器高のほぼ中位に来るものが多いようである。器面の調整は内外面ともハケ目で、外面の調整がタタキの甕もある。タタキはハケ目で消される場合もある。底部の脚台は、裾部が外反するか、直線的に開くものがある。内面に砂粒が付着するものが2点ある。

壺は、全体の器形がわかるものは出土しなかった。ラップ状に開く口縁部で、底部が平底を呈するものが多いようである。肩部に刻目や波状文を施すもの(41)口縁内面に条線を施すもの(39)などがある。

高坏は、坏部が途中で垂直に近く立ち上がって再び外に広がる形態で、脚部は緩やかに広がるもの(70)と、やや屈折して広がるもの(44)がある。脚部に3ヶ所または4ヶ所に穿孔してある。器面の調整は磨耗しており判断し難いが、胎土も細かく全般的に丁寧な調整がなされていたと推察される。

鉢は、口縁部が屈折するもの(75)とそのまま立ち上がるもの(76・77・45)がある。底部は丸底であるが、脚台が付くと考えられるもの(46)もある。

器台は、くびれ部が器高の中位よりやや上にあるもの(81・82)と口縁部下位でいったんくびれて底部にかけて緩やかに広がると考えられるもの(47)がある。調整はハケ目調整されている。その他ジョッキ型土器、支脚などがある。

以上が、本遺跡出土の土器群の内容であり、同時に菊池川下流域での弥生時代後期の土器組成を窺うことのできる資料である。熊本県内の弥生時代後期における土器編年は先学の諸論考があり、菊池川流域においては中流域の方保田東原遺跡、津袋大塚遺跡、うてな遺跡、蒲生・上の原遺跡などにおいて豊富な資料が出土しており、それぞれ土器編年が示されている。菊池川下流域においても、中流域と基本



	甕	壺	高环	鉢	器台その他
S 14 (4号住居址) 出土土器					
S 20 (2号住居址) 出土土器					

0 30cm  
(S=1/9)

第28图 住居内出土土器実測图

的には同じ変遷をたどると思われることから、それらを参考にして本遺跡出土の土器群の位置付けを考えてみる。甕については、胴部の最大径が胴部の上位から中位に下がってゆく傾向があり、さらに弥生時代終末期にかけては脚台が付かない丸底の甕が出現してゆく。今回出土した甕は脚台が付かない長胴甕は出土しておらず、胴部の最大径はほぼ中位で底部に脚台が付く甕で占められる。高坏については、坏部に段を有し、その段が次第に低くなり、明瞭ではなくなって大きく外側に広がっていく傾向が窺えるようである。今回出土した高坏は坏部に明瞭な段を有する形態のみが出土している。これらのように今回出土の土器群は、弥生時代終末期の特徴を示す土器が見られないことから、その前段階に位置する土器群で、菊池川中流域での津袋Ⅱ期にあてはめられると考えられる。

今回は本遺跡から出土した土器のみでの検討であったが、器種ごとの形態の変遷課程や器種のセット関係の詳細な検討のためには、さらに菊池川下流域における他遺跡出土の土器との比較、分析が必要である。また、菊池川流域についても、中流域と下流域では若干様相が異なる場合も考えられるため、これらの検討も今後の課題としたい。

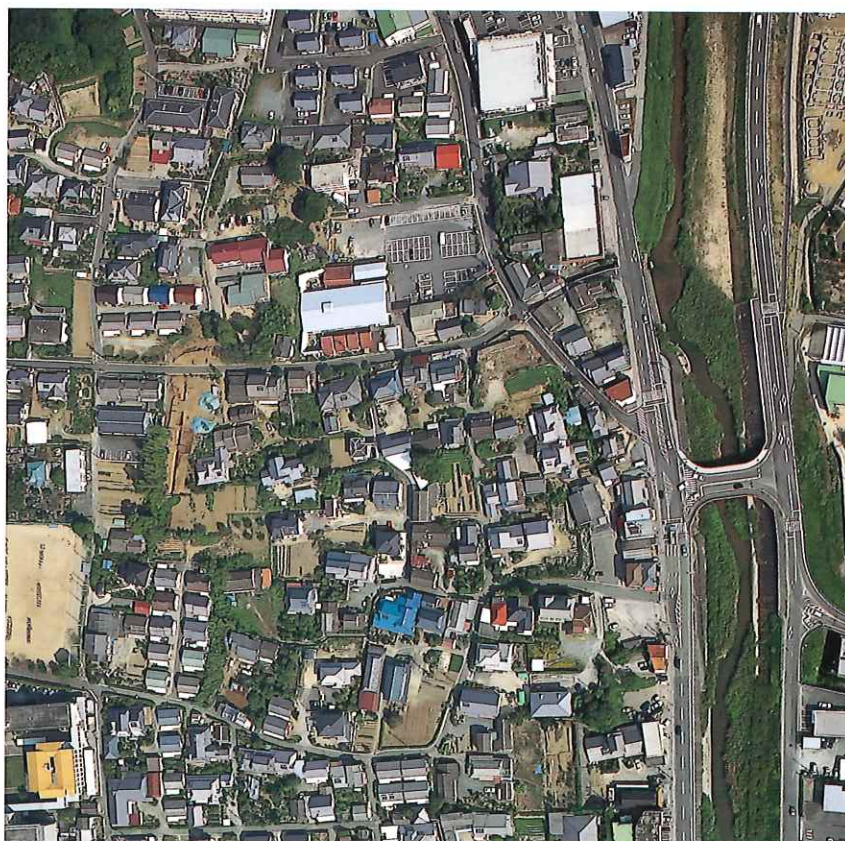
#### 参考文献

- 大田幸博 1978『熊本県の中世城跡』 熊本県文化財調査報告第30集 熊本県文化財保護協会  
中世土器研究会編 1995『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社  
門岡 久 1969『岱明町地方史』 岱明町役場  
玉名市史編集委員会編 1993『玉名市史 資料篇5 古文書』 玉名市  
工藤敬一 1998「肥後玉名郡の荘園公領と在地領主」『文学部論叢』第61号 熊本大学文学会  
高木正文 1977「鹿本地方の弥生後期土器」『古文化論叢』6  
中村幸史郎 1987『方保田東原遺跡(3)』山鹿市立博物館調査報告書第7集 山鹿市教育委員会  
西住欣一郎 1992『うてな遺跡』 熊本県文化財調査報告第121集 熊本県教育委員会  
木崎康弘 1996『蒲生・上の原遺跡』 熊本県文化財調査報告第158集 熊本県教育委員会  
河森一浩 1998「免田式土器の再検討―様式構造をめぐって―」『肥後考古第11号』肥後考古学会  
原田範昭 1999「中九州における弥生時代後期土器の編年―熊本平野部の土器にみる社会背景―」  
『先史学・考古学論究Ⅲ』

# 写 真 图 版



玉名市街地全体



岩崎城跡全体



岩崎城跡発掘調査範囲周辺



岩崎城跡発掘調査範囲全体



土塁状遺構全体1(北から)



土塁状遺構全体2(北から)



土塁状遺構(北から)



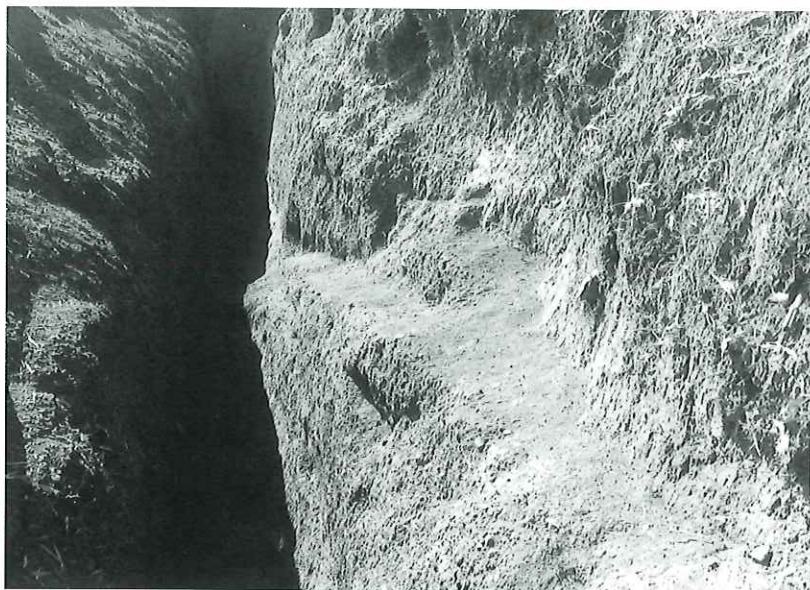
S02(南から)



C区土塁状遺構(西から)



A区土塁状遺構(南から)



スロープ状遺構(北から)



S02土層堆積状況(A-A')



土塁状遺構土層堆積状況(B-B')





S02土層堆積状況(B-B')



土壘状遺構土層堆積状況(C-C')



S02土層堆積状況(C-C')



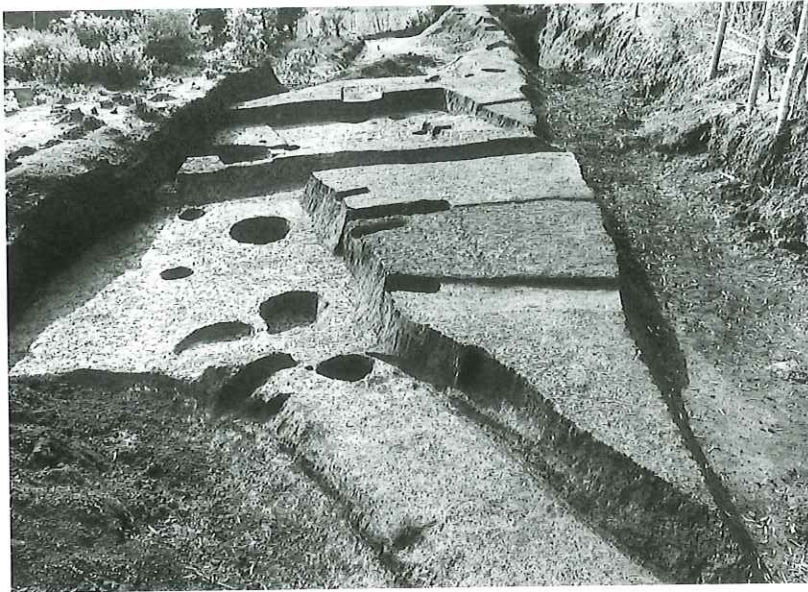
S02土層堆積状況(D-D')



C区1トレンチ(E-E')



C区3トレンチ(G-G')



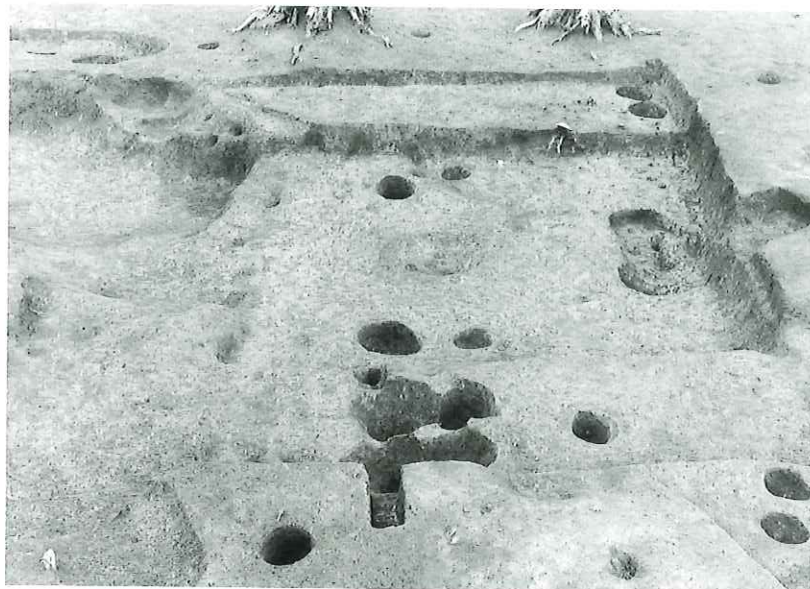
B区V層上面完掘状況(北から)



A区V層上面完掘状況(南から)



D区V層上面完掘状況



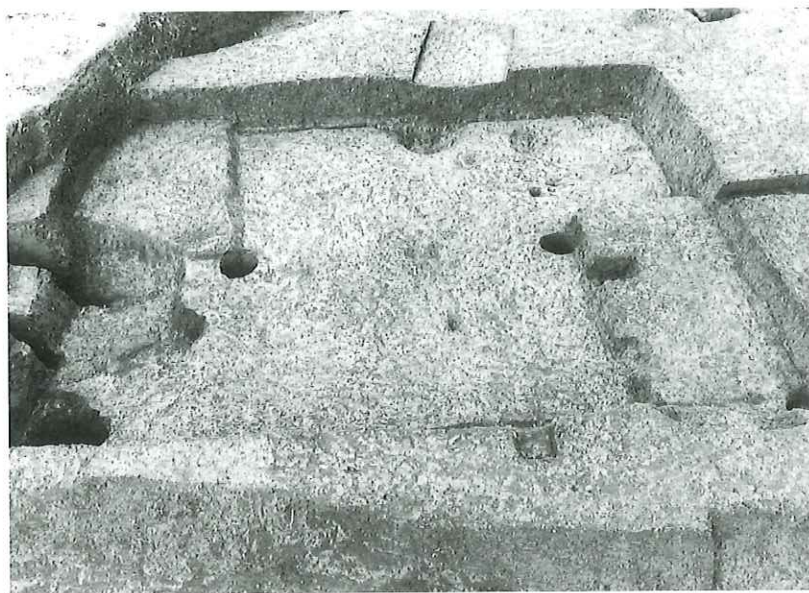
S06完掘状況(東から)



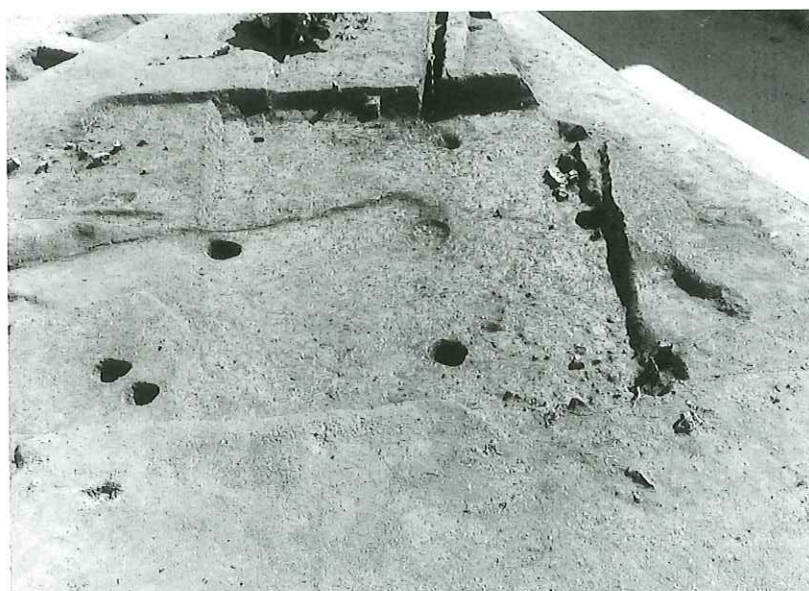
S06南壁際土坑完掘状況(北から)



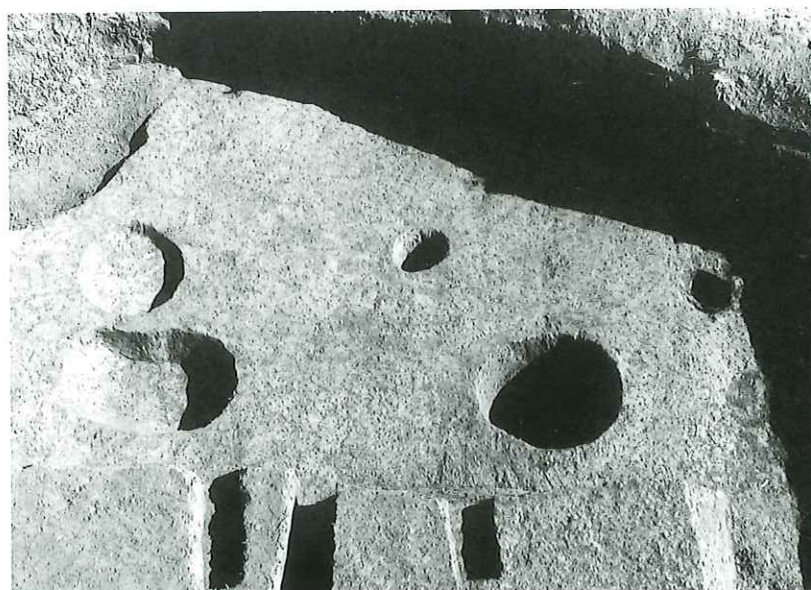
S06鉄製品出土状況



S20完堀状況(北から)



S09完堀状況(北から)



S17完堀状況(西から)



S14完掘状況(東から)



S14遺物出土状況(北から)



S14遺物出土状況(東から)



S11完掘状況(南から)



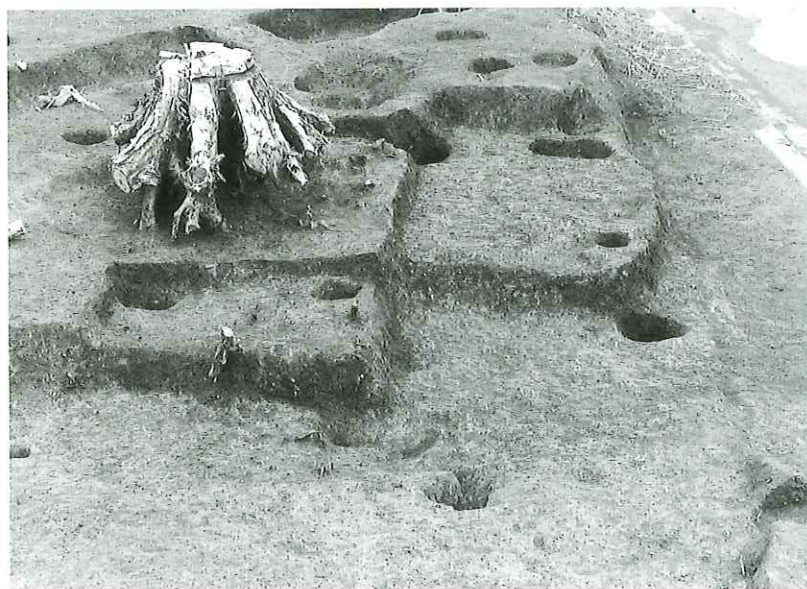
S21完掘状況(東から)



S21内ピット遺物出土状況



S25完堀状況(西から)



S10、12完堀状況(北から)

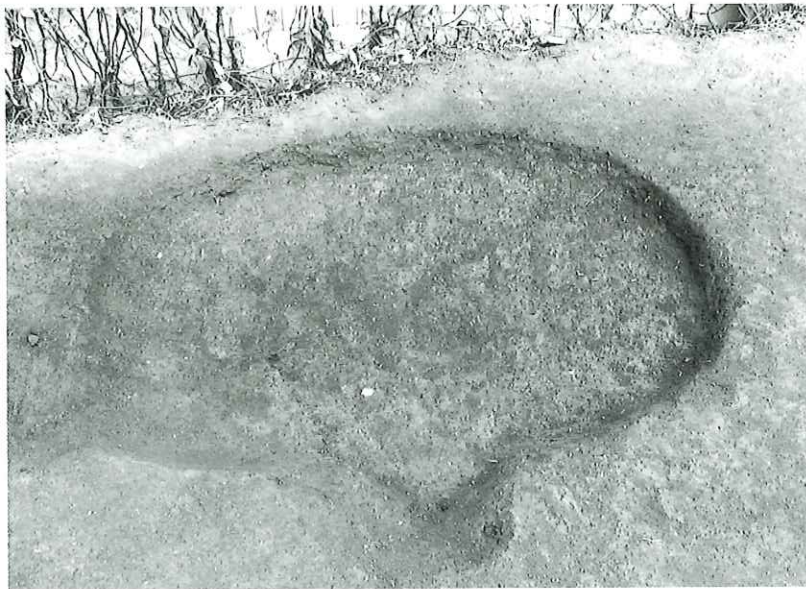


S24完掘状況(東から)

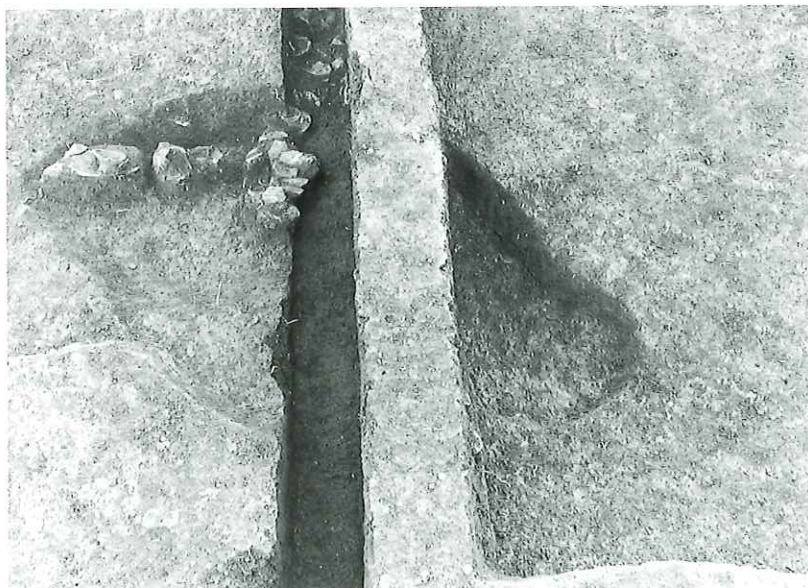




S13完掘状況(東から)



S08完掘状況(南から)



S16完掘状況(北から)



S15完堀状況(東から)



S04完堀状況(北から)



調査作業風景



23



31



27



32



29



33



30



35



36



42



37



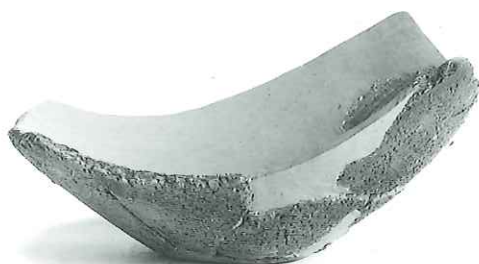
44



39



45



40



46



48



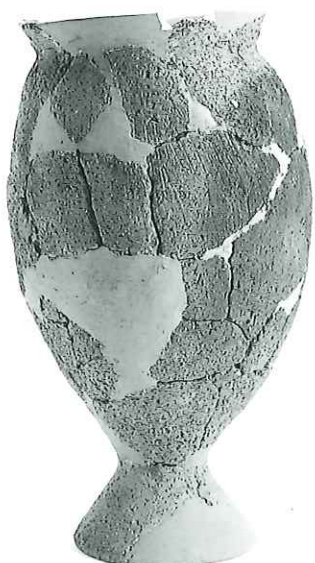
50



49



53



56



57



58



61



59



62



60



63



64



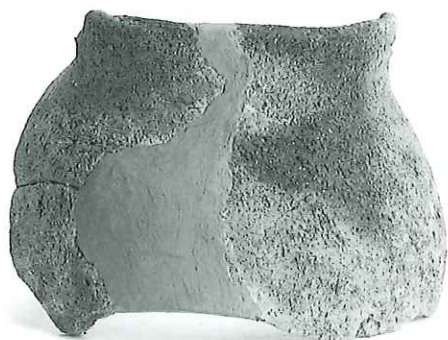
67



65



68



66



69



71



77



73



78



75



81



76



84





85



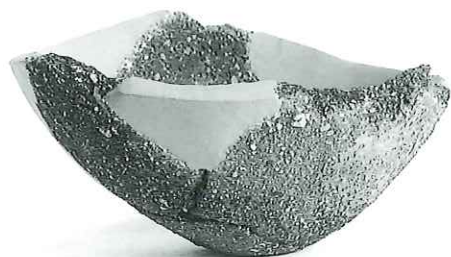
90



86



91



87



92



88



93



94



99



95



100



96



103



97



104



106



115



111



116



112



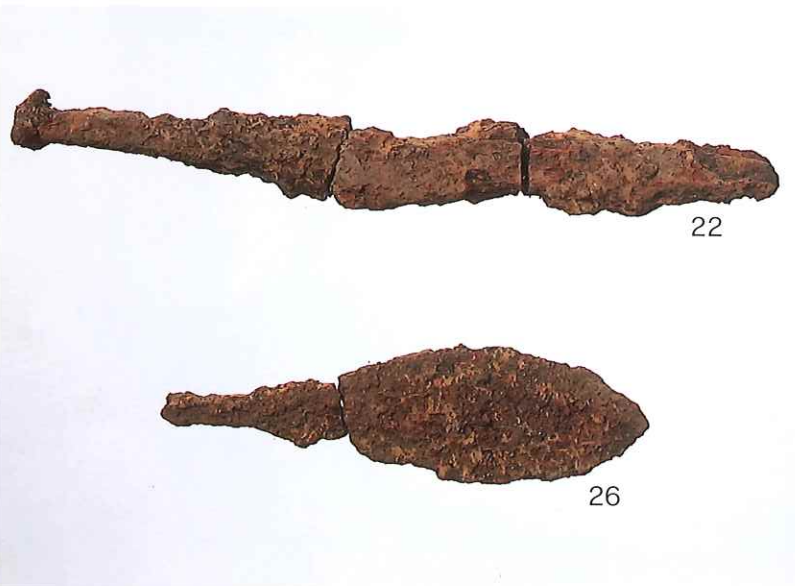
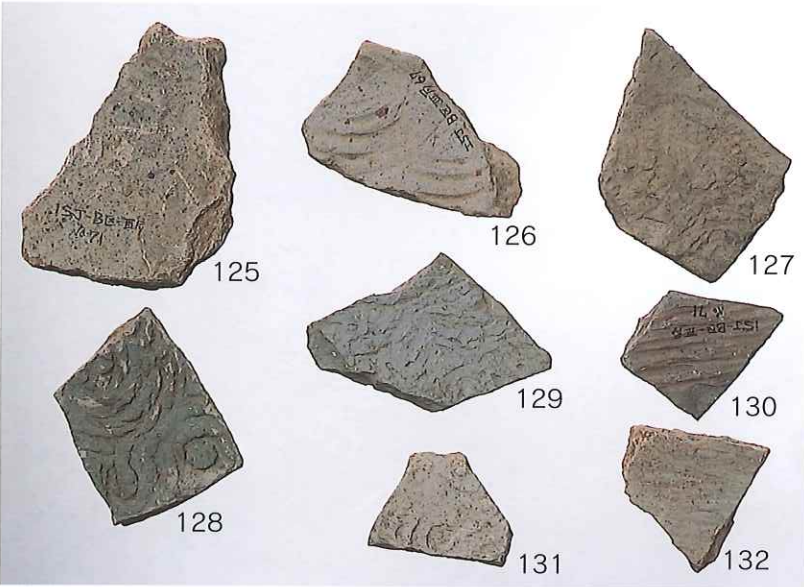
118

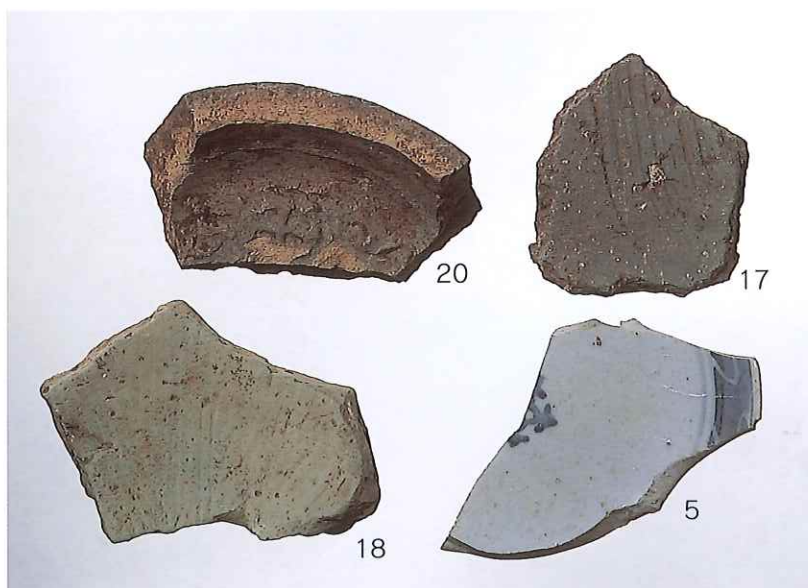


113



122





報告書抄録

ふりがな	いわさきじょうあと							
書名	岩崎城跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第12集							
編著者名	末永崇・西田道世・大倉千寿・古閑敬士 玉名市教育委員会							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒865-0051 熊本県玉名市繁根本88-1							
発行年月日	2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東緯	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いわさきじょうあと 岩崎城跡	くまもとけん 熊本県  たまなし 玉名市  いわさき 岩崎	43206	221	32° 55'49"	130° 33'34"	2001年7月1日 ∩ 2001年11月30日	1000	農地造成工事・ 公民館建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
岩崎城跡	城館   集落	中世  弥生時代後期	土壘、堀状遺構  住居址、土坑、溝 ピット群	瓦器、瓦質土器、土師器 陶磁器、鉄製品  弥生土器、鉄製品				

玉名市文化財調査報告 第12集  
岩崎城跡

---

平成15年3月31日 発行

編集発行 玉名市教育委員会  
〒865-0051 熊本県玉名市繁根木88-1  
TEL0968-75-1312・FAX0968-75-1164

印刷 株式会社 有明印刷  
〒865-0022 熊本県玉名市寺田123-1  
TEL0968-73-2055・FAX0968-72-3504

